

maturity

マチュリテイ



2017-JUL

105

公益社団法人 日本産業退職者協会

JARP

maturity

東日本大震災からの復興がいまだ道半ばにあるなかで、2016年4月14日以降熊本地方で地震が相次ぎ、甚大な被害が発生いたしました。被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げ、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

私たちは高齢者団体として東日本大震災後、会員の皆さまに救援募金を呼びかけ、ささやかではございますが関係先に寄付を行ってまいりました。

この募金活動を継続するにあたり、熊本地震の被災者の方々へのご支援も行うことといたしたく、重ね重ねのお願いではございますが、どうかご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人 日本産業退職者協会
理事長 湯藤 哲

(お願い) 払込取扱票の通信欄に、東日本大震災宛か、熊本地震宛かをご記入ください。

郵便振替 口座番号 00130 - 3 - 139353

加入者 公益社団法人 日本産業退職者協会

・おそれいりますが、振込手数料はご負担願います。

なお、当協会では協会の「私の大切な覚書き」の頒布収入の1%を災害義援基金等に寄付いたします。

目次 **maturity** 2017年／第105号

特集	毎日の暮らしを大切に生きる	久我 英二	2
ふれあい トークサロン	第29回 高齢者向け住まい&介護に備える	満田 将太	9
	第30回 「竹とんぼに魅せられて」 ソフトランディングへの軌跡	末松 孝一	12
	第31回 韓国という国のリスクと近未来の日韓関係	加藤 達也	14
社員総会報告	平成29年度社員総会報告	事務局	18
会員対策活動	みなさん、イベントに気軽に参加しましょう！	会員対策委員会	21
社会貢献活動	8年目に入る“きたざわサロン”の成果と課題		
		山鹿 素雄	22
	「かがやきサロン杉並」の活動報告	満田 将太	23
チャリティ コンサート	《第13回》チャリティコンサート～ふれあう・やさしい心～	倉片 厚子	24
マチュリティ 談話室	海外旅行あれこれ	小畑 宣之	27
	新しい仲間との交流	河合 正人	27
	下手の横好きあれこれ	渡子 忠	28
	一期一会	山口千津恵	29
	『書』はお好きですか	山中 弘	30
読書案内	「週刊読書人」の編集長がすすめる本	明石 健五	31
ひとこと 「私のちよっとしたオシャレ」	尼子元照／飯田吉辰／伊藤正雄／榎原 勝 大里璋子／大野節子／木下義雄／姫野甯尋 平井勝子／比留間文子／藤田信一／三崎昭幸 湯藤 哲／吉田昌子		32
イベントだより	囲碁会／絵手紙&小品絵画教室／江戸東京歴史散歩の会 園芸クラブ／鎌倉探訪／カラオケ会Ⅱ／四季の会 詩吟会／自然を楽しむ会／水墨画教室／竹とんぼ同好会 築地海鮮丼川柳会／デジカメクラブ／パソコンクラブ 歴史を考える会		34
首都圏だより	神奈川会／京葉会／埼玉会／西東京会		43
広島支部だより	三百回を数える「二木会」	平石 純一	47
役員名簿／編集後記			48
法人・団体 会員名簿			49

表紙写真／「酒津樋門」（岡山県倉敷市酒津にて）永山義博（広島）
裏表紙（会員作品）／菅克之／細田將孜／佐々木悦夫（広島）／藤崎章（広島）

毎日の暮しを大切に生きる

(株)暮しの手帖社 編集局長 兼営業企画部長 久我 英二

はじめに

一流企業の第一線で活躍されていたかたの退職後の暮しについて：正直、そんな大それたこと、とても私にはお話できませんよ、とは思ったのですが。

それでも、長らく雑誌に関わってきた経験と、いま『暮しの手帖』という雑誌で、まさに毎日の暮しについて一から見直すような現場にいる現状を踏まえて、もしかしたらなにかヒントになるようなことがお伝えできるかもしれない、ということを書かせていただくことになりました。

さて、昨年のNHK朝の連続テレビ小説『とと姉ちゃん』で話題にもなった『暮しの手帖』です。

戦後まもなく「女の人を幸せにする雑誌をつくりたい」と願う大橋鎮子と、「二度と戦

争をしない世の中にするための雑誌」を目指す花森安治が、その思いを併せて創刊した雑誌です。

『暮しの手帖』の編集方針は、毎日の生活を豊かで美しいものにする。それは来年で創刊70周年を迎える今も、連綿と受け継がれている精神です。

私自身も、40年以上にわたってずっと雑誌の世界で生きてきました。

その中心はいわゆるライフスタイルマガジンと呼ばれる雑誌です。

ライフスタイルとは、便利なことばですが、かなりあいまいでもあります。作っている者としては、読者一人一人が自分

の暮らし方を選択し、楽しく生きていく、そのお手伝いをするというような感覚だったでしょうか。ファッションから食べ物、住まいや旅に至るまで、扱う情報は実に多岐にわたりました。

雑誌というものは、社会を映す鏡のようなものです。人々がどんなことに興味を持ち、どんな生き方をしていったのか。当然時代とともに価値観も変わっていくし、精神的なものや物質的なものの狭間で欲望すらも揺れ動きます。そんな読者に飽くことなく情報を送り続けるものでした。

そして現在も、暮しの手帖社で雑誌の編集から販売にいたるまでをサポートさせていた



■久我 英二 (くが えいじ)

(株)暮しの手帖社 編集局長 兼営業企画部長

1953年茨城県生まれ。東京大学文学部卒。マガジンハウスに入社後「クロワッサン」「アンアン」「ターザン」「ハナコ」などの編集を担当。同社執行役員営業局長・編集局長を歴任し、2014年6月同社を退職後、2016年4月より現職。



1947年発行の『暮しの手帖』創刊号

だく生活を相変わらず続けています。

そんなわけで、私自身のリタイアはもうちょっと先という状況ですが、雑誌的視点に立った、私なりに考えるリタイア後の暮らしとは、というテーマで話をすすめさせていただければと思っております。

『暮しの手帖』の目指したもの

ご存じのかたもいらっしやるかと思いますが、『暮しの手帖』は一切のコマーシャルを排してきた雑誌です。その背後には、なにより「毎日の暮らしが一番大事」という花森安治の思いがあります。

それは戦争直後の荒廃の中から、みんなの暮らしをもう一度作り上げていこうという願いでした。

「はげしい風のふく日に、その風のふく方へ、一心に息をつめて歩いてゆくような、お互いに、生きていくのが命がけの明け暮れがつづいています。せめて、その日日にちいさな、かすかな灯をともしることができたら……」

『暮しの手帖』創刊号（1947年）のあとがきに、花森はこう記しています。

時代は移り変わって、モノがあふれる現代です。すでに欲しいものがないとまで言われるようになってしまいう中で、それではどうやって自分の暮らしを大切にしていけばいいのでしょうか。『暮しの手帖』は創刊から70年後の今も変わることなく、そのテーマを追い続けている雑誌です。

「ケ」としての社会との関わり

さて、リタイアは、言うまでもなく新たな出発でもあります。それまで生きてきた世界を離れ、まったく新しい世界で、新しい生活を一から作っていくという、そんな期待感に満ちた部分もあります。

もちろんそれは、これまで作ってきた世界、自分のキャリアを捨てて、そこから隔絶して生きるということではないでしょう。でもまた同時に、いつまでもそこにこだわって

も、新しい生活は始められないのではないかともしうのです。

そしてそこで役に立つのが、この「毎日の暮らしを大切に生きる」という姿勢なのではないかと思うのです。

企業で働くということは、生きることの軸足をそこに置いていたということでもあると思います。もちろん、それほどの会社至上主義ではないにしても、企業で働くということが原点としてあって、日々の暮らしはその上に積み重ねられていたのではないのでしょうか。リタイアを期に、そこから一旦解放されて、改めてそこに新しい暮らしを作っていく場が開けたのではないかと思うのです。

毎日の暮らしというのは、ハレとケということとで言えば、ケの部分です。でも、企業に勤めていた時代は、そこで働くということがケだったはずです。今度は、それとは違う新しいケを作る、リタイア後に充実した生活を送るために必要なことはもしかしたらそんなことなのかもしれません。

同時にリタイア後も社会性を保っていくことの重要性もあります。それには生活の領域ということにも大きく関わってきます。

たとえばそれは、大きく変化した生活圏の中で、自宅周辺のテリトリーを離れ、電車に乗ってでかけるといようなことだったりもします。

その昔、橋本治の『革命的半ズボン主義宣言』という本がありました。(河出文庫ですが、たぶん絶版)

休日に半ズボンを履いて、近所に買い物に行くのは誰でもできることです。ご近所でもよく見かけます。でも、そのままの姿で電車に乗って、隣の街まで出かけられますか？という問いかけでした。

いえ、別に半ズボンを履いた休日のお父さんスタイルで繁華街に出ようという話ではありません(橋本治は、それこそが旧来の価値観にとらわれた自己の解放ととらえて、革命的と呼んだのかと思います)。極めてプライベートな空間から外に出て、自己と社会の関わり方をどう構築し維持していくかという問題です。

リタイアというのは、決して人生からの引退ではありません。社会性を持ち続け、緊張感のある暮らしをすること、また、充実した生活という観点からはとても重要なことなのではないかと思えます。仕事をしていた

時とはまた違った意味で、周りからどう見られるかも含めた自己と社会の境界線を意識するということですが、それはだからと言って決して周りを気にして生きるということではありません。

もっと自由であっていいはずですが。でも同時に人間は、社会から隔絶して一人で生きていくものでもありません。社会との関わりの方がメインだった現役時代に比べると、そのバランスが変わるといことでしょうか。ただ、帰属意識みたいな観点でいえば、これからは自分自身に帰属する、ということなのでしょう。むしろお楽しみはそこから、これから、ということだと思います。

自分の服を自分で選んでいますか

ところでみなさんは、普段から自分でその日着る服を選んでいきますか？いやそれ以前に、自分の服を自分で買っていますか？

おしゃれ、という言葉に対して、どんなイメージを持っているのでしょうか。

「私たちの日日の暮しを、少しでも

明るく、愉しくする、そのことを何よりも大切に考えるのが、ほんとうの『おしゃれ』である」(『スタイルブック』夏1946年)
花森はまた、こんなふうにも語っています。
「どんなに

みじめな氣持であるときでも
つつましい
おしゃれ心を失はないであろう



かなしい明け暮れを過してゐるときこそ
きよらかなおしゃれ心に灯を点けよう」

（『スタイルブック』夏1946年）

もちろん『暮しの手帖』は、女性を幸せに
することを目的に創刊された雑誌です。お
しゃれと言った時には、直接的には女性をそ
の念頭に置いています。でも、人としての幸
せを考えれば、それは女も男も同じではない
でしょうか。

以前、シルバー世代の消費動向というテー
マで、雑誌編集の立場からメーカーや小売の
かたを対象にお話をさせていただいたことが
あります。100名を超える聴衆のみなさん、
ほとんどがミドルエイジ以降の男性でした。

そのとき、私はこう聞いてみました。
「この中で、いつも自分の服は自分で選ん
でいるというかた、どのくらいいらっしゃる
ますか？」

すると、ちょっと驚きでしたが、半数近い
かたが、ご自分では洋服を選んでいません
でした。

業務的にはそういうトレンドや消費活動に
日常的に関わっていらっしゃるのに、自分の
暮らしとなると、その範疇から外れてしま
うのでしょうか。日々の生活をあまり楽しめ

いないのかなあと感じたことを覚えて
います。

スーツを脱いで

『マチュリティ』読者のみなさんは、
現役時代、毎日スーツを着る生活だっ
たと思います。

もちろん自分でこだわりを持って、
お気に入りのスーツを選んで着てい
たかたもいらっしゃると思いますが、
その一方で、すべて奥様任せ、毎日
用意されたものをそのまま着て会社
に行っていたよ、というかたも少な
なかつたのではないのでしょうか。

花森は、そんなスーツに対して、「ど
うしてそんなにセビロにしがみつ
のか」とかなり過激なカウンターを浴
びせています。

「セビロを着て、ネクタイさえしめていた
ら、一かどの人間に見てもらえた、という時
代は、もうすぐ過ぎ去ってゆくだろう。あ
んなキュークツな服を、まいにち着こんで働
いている、正確にいうと、働かされているのは、
不幸であるし、理に合わない。（中略）セビ
ロを脱ごう。なにも、セビロだけが男の上

どぶねずみ色の若者たち

花森 安治

なにが先や後やの事や、よきよきおいらは地味だ、いまは地味だ、地味
ではないか、この中で生きてゆくには、いささかの勇気と、いささかの
いるのだ、ひとの真意を、みんな押しつけて、一万五千円が、どぶね
ずみ色の服を着て、のっぺりした顔で、コマーシャルの、どぶね
ずみ色に染まらば、オマケや、などと、いっぺんに、いっぺんに、



『暮しの手帖』1967年1世紀90号
特集「どぶねずみ色の若者たち」

ではない」

1976年、いまから40年も前の記事です。
さらにその約10年前、1967年の「どぶ
ねずみ色の若者たち」という記事では、こん
なことも書いていました。

「なにが天下泰平の泰平ムードだ、よく目
をひらいて見たまえ、いまは凄まじい乱世で
はないか、この中で生きてゆくには、いささ

かの勇氣と、いささかの抵抗精神がいるのだ
(中略) まるで、だれかに命令されたように、
みんながみんな、同じような服を着ている。
それが、どぶねずみ色なのだ」

ちょうどこのころ、ピーコック革命という
のが話題になっていた時代です。それは男性
の服装にもっと色彩を、というものでしたが、
実態は中のワイシャツを白からちよつと水色
に変えてみようか、程度のものでしたよう
です。

まあそうはいっても、やはりスーツは便利
だし、応用が利くし、安心できるし。です
からみなさん、当たり前前に毎日着ていら
しやうたと思います。

ところが。
リタイアすると、もうスーツは着なくなる
わけです。

着ないというか、着なくていいというか、
着る状況がなくなっていくというか。
極めてプライベートな日常空間で、スー
ツを着るのは確かに変です。

オンとオフ、という言い方をすると、ス
ツはやはりオンの服です。でも、リタイアし
てそのオンの領域が少なくなると、これまで
は「日曜のお父さん」だったオフの領域が、

暮しのほとんどを占めるようになりました。
じゃあそこでなにを着るんだ？ 何を着れば
いいんだ、ということになります。

何を着ればいいかって？
そんなもん、何を着てもいいんです、好き
なものを着ればいい。

着て楽なものがいいですか？ いままで密
かに着たいと思っていたものにチャレンジし
ますか？

ただ、好きなものと言われても、わからな
い……という話もよく聞きます。

これまで自分で服を買ったことがあまりな
ければ、なにを買えばいいのかもわかりませ
んよね。

自分で決めればいい

そんなときは、まず買ってみてください。
変でもいいじゃないですか。「ちよつとお父
さん、やめてよ」って言われるかもしれませ
んが、いいじゃないですか。自分で選んでみ
ましょう。

どうしても自分で選べなかったら、奥さん
や子供に選んでもらってもいいですけど、
でも必ずその場に居合わせましょう。もし好
みがあったら、主張しましょう。

それこそが、自分の暮らし、だからです。

それは着るものだけじゃありません。なに
を食べるか、どこに行くか、なにを見るか。
自分が関わって、自分で決めればいいだけ
です。自由に、自分の思いのまま。

こうやってこのオフの領域をどう生きるか、
というのが毎日の暮しを大切にしていくこと
そのものではないかと思うのです。なに
より大切なのは、どうやって楽しむか、です。
ちよつとだけ具体的な話をしますと、とり
あえずの私のお勧めは、たとえばスリムな
ジーンズです。

ありえない！ と思われるかもですが。で
も今は素材も進歩しているので、履いても楽
なスリムフィットタイプのジーンズがたくさ
ん出ています。ちなみに私は、某ファスト
ファッションのミラクルエアースキニー
フィットというのを愛用していますが、け
っこうこれが気に入っています。

あと、色ですか。スーツの時は、比較的ダ
クな色合いの上下に、淡い色のシャツ、ネク
タイにはけっこういろんな色を持つてくると
いうことで、自然にバランスが取れていたと
思います。ところが、カジユアルになったと
たん、あいまいな中間色を使う傾向があるよ

うにも思えます。これって、実はすごく難しいんです。

それだったら、細身のジーンズに、白いシャツ。これで十分だと思います。

もちろん、シャツはズボンの中に入れないほうがいいとか、腕はまくってみるとか、細かい「着こなしのアイデア」みたいなものは言ったらキリがありませんが、そんなことはとりあえずどうだっていいじゃないですか。

でも、姿勢や歩き方は大切です。背中丸めて、膝や腰を落とした姿勢では、元氣も出ません。背筋を伸ばして、視線を上げて、そして笑顔を絶やさずに。

人生を楽しむこととは、日々の暮らしを大切に、ていねいに生きていくことです。

モノや情報に追われるのではなく、他人がどうか、ということではなく、すべてに対して自分が精神的に優位に立つということです。そして、日常のささいなことにも感動し、喜べるようになれば、暮らしの楽しさはどんどん増えていくばかりなのではないでしょうか。

セブンの関門、地域デビュー

これまで経験してこなかったことのひとつに、地域社会とのかかわりがあるかもしれま

せん。

もちろん、数年かけて用意周到に準備をされていたかたもいらっしゃると思いますが、その一方でまったくの出たところ勝負だったかたもいらっしゃるでしょう。

そこは、いままで生きてきた社会とは別な価値観、違うルールが適用される社会かもしれません。少なくともあなたがこれまで築いてきたキャリアは、そこではあまり意味を持たないかもしれないということを、早い段階で知らされるでしょう。

暮らしのフィールドが変わるといことは、違う文化のなかで生きるということです。そこはそれまでの肩書きの通用しない世界です。名刺を交換すれば済む、ということではないのです。

あるいは、あなたの妻がこれまであなたの世界では、〇〇さんの奥様という固有名詞の希薄な存在であったものが、逆転して、こんどはあなたが〇〇さんのご主人、という存在になるかもしれません。さらに言えば、△△さんのお父様、だったりとか。

あなたがこれまで、どんな実績を積んでこられたか、知らないかたもいます。もしかしたら、ちょっとプライド的にエッ

と思うような展開だってあるかもしれません。

でも、そういう世界のなかで、名前のない存在から、一人の個人として尊重される存在になっていくことで、またそこでの暮らしが充実した楽しいものに変わって行きます。まずそのコミュニティに認知されることから始める必要があるのです。その過程ごと楽しめたらいいですね。

それから、地域社会とはまた別の、趣味や習い事、特技といったつながりも楽しめたいと思います。こちらの利点は、地域的なしがらみもないので、気が向かなかつたいつでもフェイドアウトできること。楽しくないことは、やらないほうがいいと思います。というか、もうやらなくていいのです。

そうそう、同窓会というものもあります。特に、利害関係などが希薄な中学や高校の同窓会は、出席してみると思わぬ発見があるかもしれません。もうお互いの肩書きなど、比べて気にする必要もないのですから。

相対評価から絶対評価へ

もう比べる必要がない、と書きました。自分の暮しを大切に、しかもとことん楽しんでいくために一番大切なもの。それは

この自分を含めたすべてのものを評価する価値観の転換ではないかと思うのです。

現役時代の社会では、もしかしたら他との比較でものごとを評価をしていませんでしたか。

もちろんそこは競争社会でした。常に優秀の比較対象とされ、また自らも他との比較の中で、自分はどうかだったか、どう評価されたのかを判断していたのではないのでしょうか。さらに、自分の幸せや喜びも、他との比較の上に成立していたのかもしれない。あいつのほうが結果をだしている、あいつのほうが恵まれている、と。

幸せは、比較じゃないはず。どんなに幸せを感じていても、もっと幸せそうな人間をみたら、その瞬間に相対的に不幸になってしまうのでしょうか？ じゃあそれは自分よりも不幸な人を見つければ、幸せになれるということなのでしょう。

残念ながら、そんな他との比較もまた人生の一面であり、また社会との関わりで避けて通れないものでもあったのでしょうか。

でももうそこからは解放されてもいいのではないのでしょうか。

新しい世界は、勝ち負けなんかなくていい

ところのはず。

あいつの企業年金のほうが多いだこと、あいつの息子のほうが優秀だこと、昨日の飯のほうがうまいとか、この番組のほうがつまらないとか、もう比べなくてもいいじゃないですか。

自分が楽しいか、楽しくないか。おいしいか、おいしくないか。快か、不快か。

他と比べる相対評価から、自分の中での絶対評価に変えるのです。

日々の暮しを大切にすることとは、そんな心の持ちようから始まることなのではないかと思っています。

最後にちょっとだけ宣伝です

『暮しの手帖』の読者は20代から90代までと幅広いですが、一番の中心は50〜60代の女性です。

『マチュリテイ』の読者でしたら、もしかしたら奥様がお読みになっているかもしれません。あるいは、お母様が昔読んでいらっしやった、というかたも少なくないのではないのでしょうか。

雑誌の内容ですが、現在発売中の2017年初夏88号では、いつものように「休日の

ピッツァ」や「やきそばはたのしい」など、暮らしの一番の基本となる日々の料理の記事が多いのですが、トップページでは「苔と花のテラリウム」という特集を組んでいます。また、モノクロページの『不登校だって大丈夫』という記事も大きな反響を呼ぶなど、広く生活全般から社会問題までをその対象としています。

7月25日に発売になる2017年夏89号では、「春巻きいろいろ」「素材2つのカレーライス」「籐でつくるカゴと小物」など。注目を集める沖縄の「やんばるの森」へも取材に出かけています。

男性がお読みになっても楽しめる記事が満載と自負しております。書店店頭で一度手に取って見ていただけたら幸いです。



現在発売中の『暮しの手帖』
2017年4世紀88号

ふれあいトークサロン

- 第29回 平成29年1月13日(金) (参加者38名) ■OMGパートナーズビル三階会議室において開催
- 第30回 平成29年5月26日(金) (参加者33名) ■OMGパートナーズビル三階会議室において開催
- 第31回 平成29年3月31日(金) (参加者54名) ■OMGパートナーズビル三階会議室において開催

〈第29回〉

高齢者向け住まい&介護に備える

株式会社えんカウント代表

一般社団法人高齢者住まいアドバイザー協会理事長

満田 将太

私は現在、高齢者の住まいを紹介する仕事をしております。サービス付き高齢者向け住宅や、有料老人ホーム、その他民間がやっている高齢者向けの住まいの紹介事業です。

私には当時90歳になる祖母がおりまして、あるとき、腸閉塞で入院しましたが、良くな

らず結局3か月入院した後、自宅で介護するか施設に入るかの選択に迫られました。家族で相談の結果、介護施設に入ることに決めました。その施設でリハビリに励み、入所時要介護4であったものが、要介護1にまで回復したのです。そして私達家族にこう言いました。「ヘルパーさんもすごく優しいし、楽しいことも多く、私は今、本当に幸せだよ。」と。

その時私の施設に対する暗かった印象ががらりと変わりました。そして施設を探す際、何も知識が無く苦労した経験から、「親身になって相談にのってくれる所があればいいな。」と考へ、5年前会社を設立し、現在に至っております。

今日のテーマである高齢者向け住宅のことをお話するにあたり、介護保険の仕組みを簡単に説明します。

まず介護保険料は、40歳から給与天引きが始まって65歳からは老齢年金から天引きされます。そして要介護・要支援と認定されると様々なサービスが受けられます。例えば、介

護が必要な家族がいるとして、お手伝いさんを頼むと1時間3〜4千円位しますが、要介護認定されれば介護保険が適用され、原則1割負担(一部2割負担)で済みます。デイサービスでは日中に施設を利用してレクリエーションや食事、入浴のサービスを受けられますが、この利用料も1割負担の場合は1日800円程度です。しかもほとんどのデイサービスで送迎してくれます。あとは、自宅をバリアフリーにする改築費も20万円までは介護保険を利用できます。

高齢者の介護に関して、国は「地域包括ケア」を目指しています。これは高齢者が自宅で最期まで住めるような介護環境を整備する仕組みです。確かに地域包括ケアが実現できれば素晴らしいのですが、独居や老老介護という状況が増えてきている現在、なかなか理



●満田 将太 (みつだ しょうた)
1986年生まれ。2007年、法政大学経営学部在学中に公認会計士試験に合格。同年同大学卒業後、あずさ監査法人に入社。会計監査・内部統制監査に従事。2012年に同監査法人を退社し、高齢者の住まいの相談・紹介を業とする株式会社えんカウントを設立。当協会理事、「かがやきサロン杉並」サポーター代表、一般社団法人高齢者住まいアドバイザー協会 理事長として活動中。

想通りにはいきません。その場合は施設を上
手く利用することを考えなければなりません。

現在施設に入居されている方は一体何歳の
ときに入居されたかという点、データにより
ますと80歳半ばくらいが多いです。やはりな
るべく自宅に居たいという方が多いのですが、
私の祖母のように病気やケガで入院し、そこ
で介護状態になり病院から直接施設へ、とい
うケースがすごく多いのです。退院日が例え
ば2週間後とか決まってきたて、慌てて家族が
施設を探したりしなければならなくなります。
あまり情報が得られずに、言われるがまま、
という状況にもなりかねません。

私も数々の相談にのってきましたが、そも
そも有料老人ホームというと、入居金が数

百万〜数千万円と高額で、月々の支払いも20
〜30万円と非常に費用がかかるとの認識をお
持ちの方が多くと思います。しかし、最近で
は安い有料老人ホームも増えてきていて、一
時金ゼロという所もあり、全部で12種類ほど
あります。基本的には要支援・要介護の認定
が入居条件になるところと健康な方でも入居
できるところに分かれていて、用途によって
選んでいくこととなります。以下代表的な施
設についてご説明します。

〈特別養護老人ホームⅡ特養〉

特養と呼ばれています。要介護3以上の認
定を受けた方が対象となり、重度の方でも低
価格で入居できます。ですから都心部では即
入居できず待機が当たり前になっています。
ただ、都心部から外れた地域ですと空きがあ
るケースも最近が増えてきています。居住地
だけでなく、全国どこでも申し込みできます。

〈介護老人保健施設Ⅱ老健〉

老健と呼ばれています。これはリハビリ向
けの施設です。3カ月から半年の利用を目途
にしており、すぐ自宅に戻れないけれど、リ
ハビリして在宅復帰を目指すための施設です。

ただ高齢になってくると機能回復が中々しづ
らいので、自宅に戻らず、そのまま介護施設

に転居するケースも多いです。

〈グループホーム〉

軽度の認知症の方が共同生活する住まいで
す。今、この施設がものすごく増えてきてい
ます。具体的には5人から9人の共同生活で、
日中は居間とか食堂で過ごして、お互いが助
け合いながら自分たちで生活しましょうとい
うコンセプトです。今、すごく人気があり、
少人数単位なので数は沢山ありますが直ぐ満
員になるケースが多いです。料金も民間の有
料老人ホームなどと比べるとそこまで高額で
なく、月々15万から20万円位の間で、一時金
もあまり掛かりません。

〈有料老人ホーム〉

次は有料老人ホーム。住宅型と介護付とい
う2パターンがあります。介護付きは一定料
金を払って介護を包括的にやってもらえる施
設なのに対して住宅型は、介護の度合いに
よってケアマネージャーがプランを組みます。
住宅型は自宅で介護保険を使うのと同様に部
屋に来てもらって掃除してもらおうとか、トイ
レの誘導をしてもらおうとか、事細かにスケ
ジュールが決まっています。

〈サービス付き高齢者向け住宅Ⅱサ高住〉

略してサ高住と言われています。国の政策

により増えており、高齢者向け住宅の中心になりつつあります。先ほど説明した、国の方針である「地域包括ケア」の考えに合致した施設です。高齢者単身又は夫婦世帯が元々のご自宅の維持等やり切れなくなってくると、売却してサ高住へ移る、という動きも増えてきています。基本的には賃貸マンションを借りるのと同じです。食堂併設のケースが大半で希望すれば一日3食提供されます。バリアフリーで一定の面積を保ち、安心できるケアの専門家から生活相談を受けられます。また

1日1回は全入居者が体調を崩されていないか確認する安否確認サービスがあります。この二つの要件を充足して都道府県に登録すると、サービス付き高齢者向け住宅と認定されます。現在全国で20万戸整備されています。ただ、「サービス付き」とは、介護のサービスではなく、あくまで安否確認と生活相談のサービスで、介護が必要な場合は、介護保険を使って、各自でケアマネージャーに相談することになります。よって老人ホームと一般の賃貸住宅の間といったところでしょうか。また、緊急用に、各部屋のベッドの横にナースコールのようなボタンがあり、これを押せば緊急通話することができます。

シニアシェアハウスというのも最近増えてきています。お元気なうちから移り住んで、皆さんで助け合って共同生活をしようというコンセプトの住宅です。皆さんで畑を耕したりしながら自給自足して優雅な生活を楽しんでいきます。

ここで最新の考えに沿った制度を紹介しましょう。それは在宅有料老人ホームです。家を老人ホームのように過ごせる仕組みです。老人ホームに入ると家賃が発生するので月々の生活費が圧迫されます。そこで自宅を老人ホームみたいに利用できれば一番効果的かつ効率的ではないかという考え方です。月々の料金を固定して、仮に重度の要介護5でも家族の援助なしで、家で最期ま



講演風景

で、みとりまでできるような仕組みを目指しています。現在実験的に杉並区と世田谷区でやっています。月8万円位払うと、家族の援助なしで介護を定額の費用で全てやってもらえます。何かあればヘルパーさんが15分以内にはご自宅まで来てくれるというサービスです。これがどこの家でも利用できれば介護施設に入らなくても、コストも掛からずに住みたい自宅で最期を迎えられるという仕組みです。しかし住宅が密集し、人口比率が高いような都市部でのみ実現可能で課題も残されています。

最後に、高齢者の住まいを選んでいくにあたりアドバイスをしたと思います。日頃私たちが相談を受けていて感ずることは、都心で有料老人ホームを探すと高額な施設が多いのです。首都圏で施設を探す際はできる限りエリアを広げて考える必要があります。低額の施設を探すのであれば、神奈川県では厚木とか相模原方面に行くと安いですし、23区でも板橋区とか足立区は他と比べて安いです。都下ですと西東京では値段も下がります。それから埼玉は介護施設の激戦区になっています。特別養護老人ホームも増えているので低額の有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住

宅が増えていきます。更にもっと広げて、群馬とか茨城のほうに行くのが最安で月13万円ぐらいです。全国的に見ると札幌なども低額施設が多いです。大体11〜12万円ぐらいでしょう。西日本では大阪、福岡も安いですね。九州では宮崎や鹿児島などは特に安い施設も多

いです。実際には特養よりも安い有料老人ホームもできています。今後は、日本の中で老後の移住というのにも増えてくると思います。いづれにしても、実際に物件を訪れて、ご自身目で見て、体感して決めて下さい。

(抄録 山田雅彦)

〈第30回〉

「竹とんぼに魅せられて」 ソフトランディングへの軌跡

国際竹とんぼ協会 顧問 末松 孝一

44歳の現役バリバリの頃、松山市内の本屋で見つけた『竹とんぼからの発想』をANAの機内でむさぼるように読んだことを鮮明に覚えています。「国際竹とんぼ協会」という団体があり、滞空・距離・高さの目的別竹とんぼ作りをしていることに脳裏をガツンと殴られた気がしました。造船関係の仕事で船舶用スクリーンプロペラの理屈は判っていたつもりでしたが、いざ竹とんぼとなると理屈道理にはいかなないことを思い知らされました。以後、竹とんぼに関する本や雑誌を求め、機会あるごとに神田神保町に足を運び竹に関する書籍類など購入しました。竹とんぼの作り

方や大きさ・重さなどに注目する以前にその仕上がりの美しさに魅了され、独自の方法で作りました。その後仕事の関連で日本全国に出張する機会を得、沖縄から北海道まで竹とんぼ行脚が始まりました。

「スーパー竹とんぼ」って何？

人は鳥にあこがれ、子供の頃、誰しも一度は作ったであろう竹とんぼ。これらの幼少時の竹とんぼ、親爺の竹とんぼは、飛んだとしても屋根の高さが精々だったと記憶していません。竹とんぼをより高く、より長く、より遠くへ飛ばそうと何遍となく飛行錯誤を繰り返し、改良してきたのがスーパー竹とんぼです。

羽根端に錘を付け回転

持続力を増

し、軸材に

はカーボン

パイプを使

い、左右の

羽根のバラ

ンスを徹底

的にとり芯

振れを防ぐ

等、技術革

新は続いて
います。



熱心に聴き入る聴講者

「国際竹とんぼ協会」

国際竹とんぼ協会は、竹とんぼの魅力に取りつかれた奇族の集まりです。数百名を超える会員を有し、40近い本部が全国に活動を展開しています。竹とんぼで子供たちにも作りの面白さを伝え、自分たちも「遊ぶ」ことをモットーにしている竹とんぼ症候群団です。奇族仲間には老若男女千差万別、会社生活では全く得られない異文化交流ができます。特に、戦時体験をされた方々のお話は、もの見方

を大きく変え、人間を大きくしてくれま
す。各本部・支部毎に月例会を開き、竹とんぼを
作り、近くの公園で飛ばしながら竹とんぼ談
義に花が咲きます。軽く一杯がつつい泥酔
となることも。

「竹とんぼ競技会」

競技会は全国大会が年1回、各本部・支部
での大会が任意に開かれています。自作のも
ので、軸と羽根が一体化し、手で回転させて
飛ばすこと、これが唯一のルールです。

競技は滞空時間、高さ、距離の三種からなり、
各々設計思想の異なった竹とんぼで挑戦しま
す。又、一本の竹とんぼで前記の三種を競う
三種競技もあります。大会を目指し、それぞ
れの機能を追究した竹とんぼの設計と手作り
とに全神経を集中し、ボケない毎日をおくつ
ています。53歳で平塚支部を立上げ支部長、



●末松 孝一（すえまつ こういち）

1946年生まれ。旧静岡工業高校機械科卒。
現JFE（旧日本鋼管・NKK）に入社。造船機
関設計部門からエンジニアリング水処理部門
に長く籍を置き、並行して今から20年ほど
前に目覚め“竹とんぼ”づくりに没頭。
「国際竹とんぼ協会」副会長・会長・顧問を
歴任しイベントでの司会をつとめる。

60歳から協会の副会長4年、会長4年そして
現在顧問の4年をつとめており、現役の時か
らOBの方々をまとめ諸活動に取組んだこと
が私のソフトランディングそのものでした。

仲間との出会い

全国の竹とんぼグループの多くのメンバー
等と付き合ひ、竹とんぼ談議やミニ飛翔会を
楽しみ、近場のうどん屋でのほろ酔い加減の
竹とんぼ失敗談は一層盛り上がります。一杯
入れれば若かりし頃の手柄話に花が咲き、異業
種交流の様相を成し、店じまいの時刻があつ
という間に到来、次回のお楽しみとなった幕
切れは数えきれません。人は人によつて磨か
れることを体験している毎日です。

海外交流の一翼を担い

当協会の理事でもある吉川敏孝さんが木更
津ロータリークラブとモンゴルのフレロー
タリークラブとの協同プロジェクトの立ち上
げにモンゴルを訪れました。モンゴルでは遊
牧民の伝統に根ざした習慣のためか、清潔な
飲料水不足とトイレの不備などの上下水道の
普及が大変遅れていて、多くの子供たちが下
痢などの感染症に苦しんでいます。モデル事
業として浄化槽設備一式を提供するプロジェ
クトの推進が最も効果的であると判断。国際

ロータリー事業としての提案を行なつてきま
した。交流事業の一助として竹とんぼとおも
ちゃを贈呈し大変喜ばれ、竹とんぼが国際交
流に役立ちました。同様に日本船用機関学会
主催の国際会議や水道関連の国際交流の主催
者からの竹とんぼ協力依頼が幾度となくあり
日本の伝統おもちゃに外国人が畏敬と感嘆の
念を示しています。

子供たちとのふれあい

今の子供たちは危ないからとナイフを使う
機会を奪われています。ナイフを使わない作
り方も研究し、実践されています。地域や学校
等で竹とんぼ教室を計画されるときは声を掛
けてください。下水道施設見学会を子供たち
にとり魅力あるものにしたとの意図から竹
とんぼ教室の依頼があり、東京都下水道局に
11年間、神奈川県では17年を数え今もお継
続しています。

竹とんぼに感謝

現役当時、出張が多く初めてお会いする
方々との会話に昭和時代の匂いのする街並み
と竹とんぼの話題が一致し、旧知の仲であつ
たように瞬時に打ち解ける機会を数限りなく
経験させていただきました。還暦を迎える頃
から竹とんぼのみならず手作りの工作を通じ

て知り合った多くの方々とは広い交流が始まり、

還暦から古希に至る十年間は光陰矢の如し。

竹とんぼのお蔭で如何に充実した日々であつ

たかを自己年表に重ねてみて実感しています。

現役から定年後へのソフトランディングを叶

えてくれた趣味と出会い、仲間を知り知的貪

欲さが保持出来ることに感謝している今

日です。竹とんぼのみならず「昭和時代のお

もちゃ」に慣れ親しんで育った高齢者との交

流につながり忙しい毎日が続いています。注

力しているのは地元自治会や神社での地域活

性化活動、当協会での社会貢献活動や同好会、

「NPO法人環境フロンティア21」での交流

です。必ず一献の場があり断酒ができずに

叱られる毎日です。竹とんぼや竹を使った工

作に興味のある方は当協会「竹とんぼ同好会」

に声をお掛けください。

手の機能への開眼

秋岡先生の著書『竹とんぼからの発想』

にある「手はものさし・はかり・温度計。手

は道具。手は器。手はパワー。手はセンサー。

手は目。手は脳。そして手は遊ぶ。心を喜ば

せる。」この文言の意味するところを漸く理

解できる段階に至り楽しんでいきます。

〈第31回〉

韓国という国のリスクと近未来の日韓関係

産経新聞 編集委員 加藤 達也

現在、日本を巡る安全保障の状況は北朝鮮の度重なるミサイルの打ち上げによって、大きな脅威に晒されています。

この中で、日米韓、特に日韓の関係を緊密にしていかなければなりません。韓国は政治的に不安定であり、本来両国が協力して国際社会に働きかけていかなければならぬのに、それが出来ていない状況です。

原因はどこにあるのか。それは韓国の「国民情緒」にあります。国民情緒が韓国の政治・経済や社会を支配している。この国民情緒に同調しないと、政治家も企業人も、マスコミも生きていけないわけです。以前、韓国の知人が「韓国は国民情緒、それを憲法の上に載っている。いわば、憲法の上に国民情緒法というものがあるのだ」と言っていました。

国民情緒の行き着いた先に何があるかと言うと、最近の例では、朴槿恵大統領の事件です。サムスンなど財閥系企業数社に圧力を掛

けて日本円にして数十億円のお金を、親友の女性が実質的に設立、運営していた財団に注入させた。国会は大統領弾劾を議決、続いて憲法裁判所が大統領罷免を決めた。そして大統領を辞めさせて不逮捕特権を剥奪してから裁判所が検察の要望に従い逮捕請求を認めて、ついに逮捕されましたが、その流れの中で、メディア、国会（立法）、検察、裁判所（司法）がそろって「国民情緒」に迎合してしまつたのです。

現職の大統領が弾劾罷免されましたので、改めて大統領選挙が行われます。有力候補の一人である文在寅さんという人は一体どういう人かといいますと、在釜山日本国総領事館前に新たに置かれた慰安婦像を拜んでいる姿を映像で観た方も多いのではないのでしょうか。

2015（平成27）年の末に日韓両国間で合意が取り交わされました。ソウルにある在韓日本大使館の目の前に建っている慰安婦像に関し、韓国側は像を撤去する方向で関係団体と話し合いを進めるなど努力する、日本側



●加藤 達也 (かとう たつや)

1966年東京生まれ。1991年産経新聞入社。2014年から東京本社社会部編集委員。現在は社会部編集委員として拉致問題と国際テロ、警察庁を担当。産経新聞で月1回のコラム「加藤達也の虎穴に入らずんば」を執筆。著書『なぜ私は韓国に勝てたかー朴槿恵政権との500日戦争』（産経新聞出版社）で、第25回「山本七平賞」（PHP主宰）受賞

保安庁の特殊救難隊は、実はこのセウォル号の沈没の時、日韓の間線を越えて韓国領海のすぐ手前に待機し、韓国側から救助支援要請が来るのを待っていました。結局韓国側から要請は来なかった。そのことも後々、遺族の間では政府に対する不満、不信感として残りました。なぜ断ったのかという

しかし、その後、国会の質疑で、大統領の大番頭格の秘書室長、金淇春氏がセウォル号事故当日の昼中7時間の大統領の所在を全く把握してなかったと証言したのです。こういう状況が進んで、韓国のメディアが非常に批判的な報道をするようになるわけです。空白の7時間、一体何をしていたのか？私が韓国の検察から取調べを受ける段になって、その原因となったのは、空白の7時間について触れたからだということが分かりました。

は10億円を払って、韓国側に基金を作って元慰安婦に一定額を支払って貰うという取極めでした。しかし、韓国国内では反発があつて、市民団体が取極めは無効だといって、釜山にもう一つ作りました。これは日韓間の約束に明らかに反することでもあるし、領事関係に關するウィーン条約にも違反しています。日本側は激しく抗議をし、駐韓大使と釜山総領事を一時帰国させるまでに至りました。

4月14日まで韓国の地で出国禁止になってしまいました。朴槿恵政権の憎悪、思惑と言わざるを得ません。もう一つは例の国民情緒です。国民が産経の加藤はとんでもないやつだと言っているのだからその情緒の流れに同調して厳しく処罰をしようということになった訳です。

一連の騒動の発端となったのが、セウォル号沈没事故です。2014（平成26）年4月16日の朝、セウォル号が沈没しました。そこには500人近い人が乗っていました、そのうち相当数、二百数十人が修学旅行中の高校生でした。

と、日本なんぞに助けられてたまるか、そんなことをしたら自分たちのメンツが立たない、そういう考え方があったようです。そして、朴槿恵大統領はあまりにも人命を軽視していたのではないかとこの疑問が国や社会で浮上して来るわけです。この事故の後、自分自身の、あるいは行政府としての責任をどう捉えているのかということについて、説明が不十分だった。説明責任の認識が不足しているとみられたのです。朴槿恵さんは非常に厳しい批判にさらされ、この年の5月19日、はじめて再発防止策を公表し、公式に謝ることになる。

以上を前置きとして、私の産経新聞のコラム問題を振り返って行きます。私は2010（平成22）年10月に産経新聞社ソウル支局長として現地に行ったわけですが、2014（平成26）年8月7日から2015（平成27）年

末だったので、韓国の救助態勢が非常に粗末だったので。海洋警察庁が初動で大きく出遅れました。一方、日本の海上



会場風景

私の書いたコラムについて名誉毀損だといって、大統領府の報道官から直接電話がかかってきまして、刑事・民事で徹底的に責任を追及すると通告されたのです。その一方で、後にわかったことですが、この政権に近い所が、韓国の右翼団体に対して、加藤告発をそのかし、告発による捜査が始まりました。私の記事は、『朴槿恵大統領が旅客船沈没当

日行方不明に。誰と会っていた?』というタイトルで、2014（平成26）年8月3日の正午に産経新聞のインターネット版に掲載されました。

まずこの記事について、インターネット版から削除しろということを書きましたが拒絶しました。記事の内容は、実は『朝鮮日報』が電子版のインターネット版のコラムで、『朴槿恵大統領が国会では空白の7時間が取り沙汰されていて、事故当日、男性と密会していたという噂も出ている。これは朴大統領のレームダック化が背景にあるのだ。』というようなことを書いていたのです。この朝鮮日報のコラムをヒントにして、取材していくうちに、大統領の人間関係の相関図に遭遇し具体的な話も聞きましたのでそれを記事にしたのです。

この経緯を、検事に説明すれば分かるだろうということ、8月18日にソウルの検察に出頭し取り調べを受けました。検事が聞いてきたのは、「加藤の記事の中で、朴大統領の男女関係に関する噂を取り上げていますね。これは、どうしてなの?」と言う。私は「いや、韓国における政治や社会の状況を的確に日本に伝える為にやったもので、悪意など全

くない」と言いましたが、納得しないわけですから、私も「日本語で日本の読者に向けて書いたものをいちいち取り上げて、これは名誉毀損だということになると、世界中のメディアは、韓国の検察がいつは気に食わないから呼んで調べようとすれば捜査対象になってしまう。それはメディアを萎縮させることになり、国際社会からは言論の自由の重大な侵害だと映りますよ」と反論しました。検事は全く聞く耳を持たずに私を起訴したのです。

これに対し、日本政府は韓国側の姿勢を厳しく非難しました。

裁判が始まったのは2014（平成26）年11月27日です。なんと傍聴席に私を告発した右翼の人が3人座っていた。『加藤は大統領に謝れ』とビラのような物を出して叫ぶのを、裁判長は黙って見ていた。

公判が進むにつれ、韓国が外国の特派員を刑事訴追するという異常な事態に諸外国の新聞が批判の声をあげ、ついには、米國務省のサキ報道官が、「韓国の名誉毀損罪の運用については、合衆国としても懸念してきた」と言及しました。

そうすると、韓国側は急に懐柔策に出て来ました。東京にある韓国大使館の広報官が産経新聞を訪ねて来て、「一言遺憾と言ってもらえれば、私たちとしても引つ込みがつく」と申し入れてきたがお断りしたと本社から聞きました。韓国の大統領府からも日本側に対し色々な働きかけがあったようです。

そうこうしているうちに、弁護士が第2回公判で、証人として告発した右翼を呼んだのですね。そして弁護士が、「被告人の加藤の書いたコラムのどこの部分が名誉毀損なの？」と聞いたら答えられない。つまり、この公判で告発の根拠はなかったということが判明してしまいました。そうしたら、告発者が「7割以上の韓国人には反日感情がある。加藤の記事はそれ自体気分が悪かった」と。つまり、気分が悪かったから告発したということをや吐露してしまったのです。その後裁判は1年続くわけですが、当然ながら無罪になりました。そもそも告発の根拠がないわけですから。李東根裁判長は、「コラムは政治状況を伝える目的であって、誹謗目的は認められず、公益の範囲内だ」と判示しました。当たり前ですね。だから言ったじゃないかっという話です。裁判官や検事のもの考え方

を見ていまして、韓国は近代国家の体を成しているのかなという疑問が頭をよぎったわけです。

では韓国の人々は、産経新聞の私のコラム問題をどう見たのか。インターネット上のコメントでは、私のことを罵倒するのが6割ぐらい。でも4割ぐらいの人は朴槿恵政権と最近の韓国のメディアの、反日姿勢が過剰だ、過度な反日姿勢が問題をややこしくしているのではないかとか、朝鮮日報のコラムにあらた書いてあったことを取り込んで書いただけなのに、なんで朝鮮日報は問題にされないのかというような、当然の疑問ですね。それから、今回だけは産経の記者が正しいのではないかという意見もありました。

日本の特派員として多くの韓国人と接してきて、対日コンプレックスというのが政財界、メディア、学問界、それから行政機関の長といった人々の間に強くあると感じます。その発想は、自分たちは優秀だから、日本の最先端の技術やシステム、そして財物までも、導入してうまく使いこなしているという「用日」の考え方です。さらに、もう日本をわが国は

克服してしまったという克日論であるとか、相手にしなくていいという侮日。

日本を乗り越える、可能であれば無視するという、こういう精神、思想にも結び付きかねない考え方が韓国には底流としてあるのです。

一方で、安全保障については、実は日本と韓国は現時点では比較的うまくやっています。軍事情報包括保護協定というのがあります。これを昨年11月から運用しています。日米、日韓で情報を共有して、北朝鮮の脅威に備えようというものです。

最後に、私がこのような体験を思うことは、明確なものごとを発信する、謝罪をしると言われても、その根拠がないものについて、いいかげんな妥協をしてはいけないのかなど。特に韓国との間では重要です。中途半端な妥協をすることによって不利益を被つても日本人は優しいですから、まあ仕方がないのかな、みたいなことになる。でも、それではこれからの日韓関係においては駄目だと私は思っております。

ご清聴ありがとうございました。

平成29年度社員総会報告

事務局

平成29年度社員総会は、6月9日（金）築地コンパビルの地下1階コンワホールにおいて開催。平成28年度事業報告及び収支決算に関する件が諮られ、審議の結果異議なく承認されました。次に理事1名選任に関する件が審議され、長澤征次氏の理事就任が異議なく承認されました。続いて平成29年度事業計画及び収支予算について報告が行われ、すべての議事を終了しました。

平成28年度は、公益法人となつて以来初の赤字決算となりました。赤字の主な原因は「私の大切な覚書き」の頒布が不振であったことにあります。また過年度に遡って消費税の申告・納付をしたことも影響しておりますが、これは一過性のものであります。

平成29年度は収支均衡の予算を組んでおります。すでに5月に「私の大切な覚書き」2万部の頒布が実現しているほか、会員の皆様から例年以上の寄付金を寄せていただいております。また、経費の抜本的な見直しを行うことにより、収支均衡を実現させるべく取組んでいるところであります。

I 平成28年度事業報告

【公益目的事業—高齢者の社会参加支援】

I 社会参加支援事業（定款4条1項1号）

① 社会貢献事業

イ 広島支部では昨年引続きエリザベト音楽大学と共催で留学生支援のためのチャリティコンサートを開催した。会場は同大学のセシリアホールで、入場者は約250名であった。なお、関東地区では出演者と会場の日程が整わず、見送りとせざるを得なかった。

ロ 7月11日（月）開催の「第17回はつらつふれあいの集い」において『虹の子作業所』入居者作品の販売を行った。

ハ 生活情報誌「Rプラン」及び「私の大切な覚書き」の頒布収入の1%に会員からの浄財を加え、10万円を福島県双葉町教育委員会に寄付した。

埼玉会では各種イベント実施時に参加者から寄託された金額計4万円を埼玉県社会

福祉協議会に寄付した。

広島支部ではチャリティコンサートのチケット売上代金の一部10万円を公益財団法人広島平和文化センターに寄付した。この寄付金は広島市在住の留学生を支援するための『ひろしま奨学金』の原資に充当される。

二 広島支部では留学生との交流会を2回実施。留学生延べ74名、会員延べ88名が参加した。その他、留学生との食事を1回、卓球大会を4回開催した。

ホ 広島地区では「国際交流・協力の日」への協力など延べ105名がボランティア活動に参加した。

ヘ 世田谷区下北沢で毎月1回認知症予防活動事業「きたざわサロン」を開催した。

ト 杉並区西荻窪ではシニアと若い世代が協力して住みよい街づくりにつなげる活動「かがやきサロン」を毎月1回開催した。

チ ペットボトルキャップ回収を継続実施。本年度は約8万個、184kgに達した。使用済み切手の回収も継続実施した。

② 就業支援事業

株式会社高齢社を会員に紹介し、就業希望者は同社に申し込む制度を設けている。本年度は希望する職務と提供される職務がマッチしなかったため、就業実現には至らなかった。

③生活情報提供事業

イ エンディングノート「私の大切な覚書き」を2700部頒布した。

ロ マイホームの健康診断（耐震予防）、高齢者住宅、介護保険制度、成年後見制度についてセミナーの開催や資料提供を行った。

④イベント事業ほか

イ 関東22、広島27のイベントが活発に活動し、年間延べ1万2千人以上が参加した。

ロ 関東地区は活動地域が広域なため、神奈川県、埼玉県、東京都多摩地区、東京23区及び千葉県の4地域に分け、それぞれ地域会を置いて地域に密着したイベント活動を行った。

2 対外事業（定款4条1項2号）

内閣府主催、高齢者NGO連携協議会（高連協）協力の「高齢社会フォーラム」に参加した。

3 研修、講演会事業（定款4条1項3号）

イ 講演と交流の場「ふれあいトークサロン」を5回開催。延べ202名が参加した。

ロ 損保マチュリティ講演会は学習院大学特別客員教授岩田公雄氏を講師に開催。

145名が参加した。

4 広報事業（定款4条1項4号）

イ 機関誌「マチュリティ」を7月と1月に発行した。

ロ ホームページに協会の概要、事業報告等の情報公開、イベント活動、機関誌「マチュリティ」全文などを掲載。入会申し込み、イベント参加申し込み、「私の大切な覚書き」申し込みがホームページから出来るようにしている。

II 収益事業（定款4条1項6号）

イ 「福利厚生施設のアウトソーシング事業」に協力、財政面で成果を挙げている。

ロ 生活情報誌「Rプラン」を、地方銀行を通じて4万5千人に配布した。

III その他事業（定款4条1項5号及び6号）

イ 関東地区では7月11日（月）に140名が参加して「はつらつふれあいの集い」を開催した。また、広島支部では1月26日（木）に161名が参加して新年懇親会を開催した。

ロ 「マチュリティニュース」「ヒロシママチュリティ」を関東・広島各6回発行した。

IV 当面の課題

1 法人会員…新規の入会が2社あり、年度末現在の会員数は30社・団体となっている。引き続き会員の獲得に努める。

2 個人会員…年間で82名が正会員として入会したが、高齢化に伴う退会者も79名にのぼったため、3名の増加にとどまった。

関東984名（含家族会員386名）

広島699名（含家族会員230名）

3 財政基盤の強化

法人会員・個人会員からの会費収入に加え、「私の大切な覚書き」の頒布に引き続き積極的に取り組む。さらに、安定的な収入を増やすために既存事業の深掘りと新規事業の開発に取り組む。

II 平成29年度事業計画

【公益目的事業—高齢者の社会参加支援】

I 社会参加支援事業（定款4条1項1号）

①社会貢献事業

イ チャリティコンサート（関東及び広島）の開催、バザーの実施、認知症予防事業、世代間交流事業、留学生との交流、ボランティア派遣などを継続実施する。

ロ 「私の大切な覚書き」の頒布実績の1%に会員その他の浄財を加えて東日本大震災復興関連事業への寄付を継続する。

ハ 地域活動として広島支部及び神奈川会・埼玉会・西東京会・京葉会の活動を積極的に進める。

②就業支援事業

高齢者の希望に合った就業形態で人材斡旋を行う機関を会員に紹介し、就業を支援する。

③生活情報事業

イ エンディングノート「私の大切な覚書き」

頒布事業を継続して推進する。

ロ 高齢者住宅の現状、相続と遺言、健康・

医療問題、成年後見制度などの説明会開催や各種資料配布による情報提供を行う。

④イベント事業

関東・広島の両地区でイベント事業の一層の

活発化に取り組む。

2 対外事業（定款4条1項2号）

他の高齢者団体と連携して当協会の事業目的になかった活動に取り組む。

3 研修、講演会事業（定款4条1項3号）

「ふれあいトークサロン」「損保マチュリティ講演会」等を開催する。

4 広報事業（定款4条1項4号）

機関誌「マチュリティ」を年2回発行する。
ホームページの一層の充実を図り、広範な広報活動を展開する。

II 収益事業（定款4条1項6号）

「福利厚生施設のアウトソーシング事業」などに協力する。

III その他事業（定款4条1項5号及び6号）

「はつらつふれあいの集い」その他、会員相互の親睦を図る行事を開催する。

「マチュリティニュース」「ヒロシママチュリ

ティ」を定期的に発行するとともに、その内容をホームページに掲載し、広く一般に公開する。

IV 当面の課題

1 法人会員対策

イ 新規法人会員の加入を促進する。

ロ 法人会員との連携を密にし、一層の支援を得るよう努める。

2 個人会員対策

関東地区の各地域会及び広島支部を中心に、協会活動のPRを強化するとともに、ホームページの内容を充実して広くシニアの社会参加を呼びかけ、会員増強に努める。

3 財政基盤強化

イ 法人会員、個人会員増強による会費収入の増加を図る。

ロ 当協会の公益活動を広く訴求し、各界各層の理解を得て寄付金を募る。

ハ エンディングノート「私の大切な覚書き」の頒布活動を強化する。

ニ 「企業厚生施設のアウトソーシング事業」などへの協力強化に取り組む。

4 地域会組織の充実

組織の強化並びに事業活動の充実につとめ、シニアの社会参加を促進し、地域に密着した活動を目指す。

平成28年度収支決算と平成29年度予算 (千円)

	28年度決算	29年度予算
収益の部		
法人会費	3,960	3,960
個人会費	3,148	3,230
会員負担金	2,960	2,590
Rプラン	4,039	0
私の大切な覚書き	750	5,000
チャリティコンサート	0	1,000
コンサルティング事業	4,189	4,200
受取寄付金	972	1,000
その他	825	506
合計	20,843	21,486
費用の部		
人件費	5,121	5,130
旅費交通費	2,640	1,770
通信運搬費	1,398	1,148
会議会合費	3,853	3,090
印刷製本費	4,125	2,570
賃借料	4,052	4,215
委託費	1,225	255
租税公課	2,665	580
その他	3,605	2,728
合計	28,684	21,486
当期経常増減	△7,842	0

(注) 1. 四捨五入の関係で端数が一致していません。
2. Rプランとは地方銀行と提携し、主として年金受給者に配布する生活情報提供誌です。なお、この事業は平成28年度で終了しました。
3. コンサルティング事業は「福利厚生施設のアウトソーシング」に協力して得た収益です。

みなさん、イベントに気軽に参加しましょう！

会員対策委員会

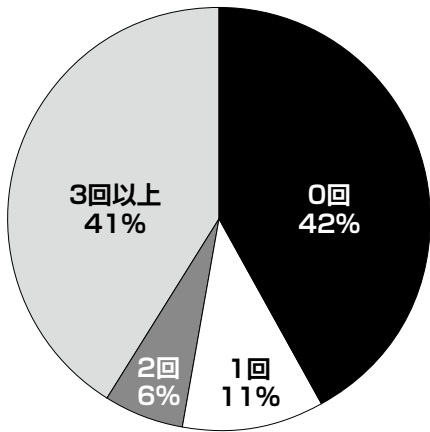
本年度当委員会では会員の増強と現会員の活性化を二本柱として活動して行きます。

①会員のイベント参加実態調査を実施しました

関東正会員600名（男80％・女20％）のうち過去2年間にイベントに1回以上参加した人は58％です。（平成27・28年のイベントの参加者は349名。参加者の男女比はおおよそ3対1）

また、参加が1回または2回の人約100名になっています。（図1参照）

図1 関東会員のイベント参加状況（平成27・28年）



これまでイベントに参加したことのない方はマチュリティニュースや協会のホームページをご覧になり、ぜひ一度参加してみてください。

協会では地域会の協力のもと、未参加者や参加者からのご意見・ご要望をお聞きし、今後の企画に活かして参ります。

②魅力あるイベントを企画し、実施しています

イベントを地域会共同で開催したり、地域会とサークルとで共同開催するなど新規参加者の増加を図っています。イベント



見学イベント風景

ト参加への案内や実施後のイベント便りを会員あてに送付し、また協会ホームページに掲載PRしていきます。

これからも健康増進のための屋外・屋内企画や社会貢献・社会福祉活動などの充実を図ります。

③会員へのホットな情報提供や講演会を実施しています

充実したシニアライフに資するため、生活情報委員会・講演トークサロン委員会との連携により会員へタイムリーで幅広い情報提供を行っています。会員の皆様ぜひご参加ください。健康・医療・税務・相続など関心あるテーマがありましたら協会までお寄せください。また協会では「マチュリティニュース」に有意義な生活情報を同封しています。

今後とも多くの方々と交流できますよう、会員の皆様には新入会員のご紹介をお願いいたします。

8年目に入る「きたざわサロン」の成果と課題

社会貢献活動委員会 山鹿 素雄

「ニュース！ ニュース！」と朝大声で伝えてきた加藤孝子さん（当協会参与）の電話での第一報がきたざわサロンの始まりでした。7年前の3月のことです。世田谷区から認知症予防の活動を日退協で協力してくれないかというお誘いの電話でした。

お引き受けし、準備も十分できないまま、未経験者ばかりのスタッフで、地域とのチャネルも無く何人参加されるか分からない不安な状態でのスタートでした。

2010年6月に下北沢タウンホールで第一回を開催してから早いもので丸7年たったわけですが、改めて調べて見ますと、スタートから翌年の5月までの1年間に参加して、現在も続け参加している人が12名居られます。直近の毎月の参加者は平均して23〜24名です。ので、過半数になるわけで、この人たちが7年も続けて参加しておられることは、我々の試みている毎回の催しが心身に亘って成果を上げていている結果と考えられ、この活動を評価してよいと思っています。

この事を念頭に御祝の行事を行って、毎年連続7年の人達を祝って行きたいと思っています。さて、こういうおめでとうの話とは違って、今運営上一つの問題にぶつかっております。それは会場の問題です。現会場は地下一階で「音を出しても良い」数少ない会場なので好都合ですが定員が30名です。常時23〜24名の参加者を前提に、これを支えるスタッフは荷物運搬、オヤツの買い出し、湯茶の準備、会場設営など、どうしてもピーク時には10名は必要です。従って、定員オーバーになってしまふ訳で、別の部屋を借りたり、どうしても確保できない場合は順番に休みをとったりして対応しています。この別の部屋を確保するためには、毎月月初の1日〜4日に下北沢タウンホールにある社協の機械で申込、6日に確認操作をしなければ抽選に当たっても無効になるので、その都度スタッフは神奈川県や千葉県、東京都西部からはるばる電車で出かけていく必要があります。

当分はこのままではいかざるを得ませんが、

考えてみますとスタッフも確実に7年の年齢を重ねてきました。そろそろ新しい人の確保に向けて動き出さないといけなくなりつつあります。ぜひ皆様方のお力添えをお願いして、スタッフとしての参加を呼び掛けていただきたいと思っています。

一方、もう一つの問題であった現地での荷物置場の確保につきましては、参加者のご協力でご協力で見つかり、解決しました。

また、財政的には女性スタッフや「四季の会」のメンバーによる手作り作品、国際竹とんぼ協会の作品の展示販売に力が入っており、「チャリティコンサート」や、「はつらつふれあいの集い」（親睦会）での皆様のご協力をお願いいたします。



「きたざわサロン」7周年の集い

「かがやきサロン杉並」の活動報告 ～活動4年目を迎えました～

東京都杉並区西荻窪で開催している世代間交流サロン「かがやきサロン杉並」は、2017年4月1日（第31回）で丸3年となり、4年目を迎えることができました。多くの方のご支援によりここまで続けてこられたことに感謝申し上げます。

今回は「かがやきサロン杉並の役割」と「最近の活動報告」をさせていただきます。

■かがやきサロン杉並の役割（地域デビューのきっかけとして）

「かがやきサロン杉並」は多世代交流の場としてスタートしましたが、この場が地域デビューのきっかけにできればとも考えています。特に長年仕事をされてきて退職された方などは、これまで地域活動とは無縁な方も多かったと思います。そうした中で会社を退職して新しいコミュニティを探している方が、地域デビューの場として選んで頂けるように、興味をもってもらえる演目（音楽と役立ち情報）を準備しています。



2017年2月 二次会の即興演奏会



2017年2月
知って得する確定申告講座

サポーター代表 満田 将太



2017年3月 我が家の耐震診断



2017年6月 ジャズセッション

■最近の活動報告

★開催概要

開催場所…かがやき亭
 アクセス…JR西荻窪駅から徒歩7分又はバスで西荻窪北4丁目より徒歩2分
 住所…東京都杉並区西荻北4丁目4-4
 開催日…毎月第1土曜日15時～17時（1月、5月は休み）
 参加費…1000円・お茶菓子付き（17時より交流会・別途500円／お酒あり）
 プログラム…コンサート、合唱、生カラオケ、お役立ち情報等の紹介、健康体操など
 HP…<http://suginami-salon.com>

「かがやきサロン杉並」では、参加者だけでなく、お手伝いして下さるボランティアの方の募集もしています。

《第13回》チャリティコンサート〜ふれあう・やさしい心〜

華麗で実力者揃いの出演者たちが

「ふれあう・やさしい心」を

ピアノとフルートの妙なる旋律と

胸に響く歌声でお届けいたしました！

開催：2017（平成29）年6月24日（土）
 会場：六本木・ハリウッドホール
 主催：公益社団法人日本産業退職者協会
 後援：東京都社会福祉協議会・東京善意銀行・学校法人メイ・ウシヤマ学園

◆アットホームなチャリティコンサート

当協会のチャリティコンサートの合言葉である「チケットを一枚購入することで福祉施設の方をおひとりお招きし、共に楽しみましょう！」の精神が浸透し、関係者全員の工夫と協力で和気藹々のイベントとなりました。オープニングの曲『愛の挨拶』は前回までと違いジャズ風に編曲され、出演者全員が登場してハーモニーを作り出し、賑やかな開幕の演出に拍手が湧きました。

第一部は威勢の良い楽しい曲目に徹していて、第二部のはじめは高尚、且つお茶目さもある曲で始まりました。オペラ『魔笛』より『パパパの二重唱』の曲では最高の盛り上がり部分の塩入功司さんと芝沼美湖さんペアが踊り、オペラ『サムソンとデリラ』より『私

の心はあなたの声に開く』では、榛葉樹人さんと望月友美さんのお二人でのロミオとジュリエット風のお芝居がありました。この場面については福祉施設の子供たちからも自筆でお礼と大絶賛のお手紙が届きました。

また、宮崎駿監督のアニメ『ラピュタの城』のテーマ曲『君をのせて』が望月友美さんの歌ではじまると会員のお孫さんたちが身を乗り出して嬉しそうにリズムをとって聞く微笑ましい姿がありました。

一方、ジャンルをかえて穏やかで温かさ溢れる『アヴェ・マリア』が榛葉樹人さんの解説付きでグノー作曲のものとマスカーニ作曲の二通りが歌われて、それぞれの曲の内容が理解でき、より一層の感銘を受けることができました。皆様も曲の違いを肌を感じながら楽しまれている様子でした。

コンサートの最後、出演者と来場者全員による『今日の日はさよなら』『故郷』の合唱の場面では一昨年より皆様がいっそう、元気で大きな声を出して歌い盛り上がりました。合唱についての感動は地域活動支援センター「まちプラ」の利用者のお手紙にもあり、当日、会場の皆様からも二曲の合唱を歌えて気持ち良かったと口々に伝えられました。

◆全席指定席に切り替えて思わぬ効果も

これまで毎回、コンサート入口が大変な混雑で観客の皆様にご迷惑をかけて胸を痛めておりましたので、敢えて全席指定席という方法を試してみました。会場への入場もスムーズに行われて座席に安心して座れるため、エレベーター脇のコナーに設けた「虹の子」（ダウン症の施設）の子供たちが作ったクッ



出演者全員でオープニング曲「愛の挨拶」を歌う

キー等の作品や「きたざわサロン」のボランティアご婦人たちが手造りされた色々な作品のバザーなど、生活情報委員会による「私の大切な覚書」「高齢者向け住まい&介護に備える」のガイドブックの販売があるコーナーもゆっくりと見られて、買い物ができたと喜ばれました。

実は、マチュリテイに全席が指定席であることをチラシで呼びかけたところ、チケットがアツという間に完売状態になり安心いたしました。販売総数は368枚にのびりました。社会福祉施設のご招待は、最終的に合計250名。法人会員関係者その他のご招待者が17名。参加総数635名の大イベントとなりました。法人会員関係者のご参加者には、日本産業退職者協会の社会貢献活動の一端を体験していただくことで、いっそうのご理解を得られるのではないかと思います。更に東京善意銀行からお二人のご参加もありました。

☆出演者に恵まれてこそ

毎週月曜日夜九時から始まるBS日テレの『BS日本・こころの歌』に出演して大活躍中のテノール歌手の榛葉樹人さん、バリトン歌手の塩入功司さんのお二人・美しい声の



塩入功司さん、芝沼美湖さんが「パパパの二重唱」で踊る

ソプラノ歌手の芝沼美湖さん・温かな声のメゾソプラノ歌手の望月友美さん・聴く人の胸に沁みわたる音色、フルート奏者の谷藤万喜子さん・妙なる調べを奏でるピアニストの赤塚太郎さんという華麗な出演者。

其々の個性を上手く引き出す赤塚さんの企画・構成、そして演出に磨きを加えられてこそその盛り上がりでした。

☆最後にひと言

第二代目委員長として初めて企画段階から、参画しましたが、諸先輩方のお知恵とご尽力



榛葉樹人さん、望月友美さんが「私の心はあなたの声に開く」を熱唱



赤塚太郎さん、谷藤万喜子さんの演奏風景。



コンサート終了後、社会福祉法人 福音会 町田愛信園の皆さんと交流。
舞台上に望月友美さん、芝沼美湖さん。

の後楯がなければ今回のコンサートの実現に
漕ぎつけることは、出来ませんでした。

出演者の方々との交渉や当日までのタイム
スケジュール調整などで精神的に追い込まれ
そうになりながらも、諸先輩方の叱咤激励を
糧に前に進めてくれました。

日退協の良いところは神奈川・京葉・埼玉・
西東京に確固たる地域会が存在。各地域会の
世話人代表へお願いして、コンサート前日の

会場等の設営準備の係を各地域会から5名ず
つ、コンサート当日は又、別に其々5名ずつ
選出して運営のお手伝いをして貰うことにし
ました。地域によっては、遙か遠方からのお
手伝いにも拘わらず皆様から快くご承諾いた
だきました。

四季の会(女性会員主婦)も合わせたチケッ
ト販売の協力活動も、万全でした。これらは
まさに、公益社団法人の会員として社会貢献

を担って下さる奉仕の精神に基づいており、
誠に有り難いことでした。

「来年も是非来たいです」と言ってお下さっ
た福祉施設の老婦人を思い浮かべ、来年六月
の公演へ向け身を引き締めているところです。

(チャリティコンサート委員会

委員長 倉片厚子)

マチユリテイ談話室

海外旅行あれこれ

広島支部 小畑宣之



歳。現在は76歳。

故郷・尾道を18歳で離れ、広島・関東・北海道を経て、尾道に帰郷した時には64

初めての海外旅行は43歳、シンガポールへ。きっかけは、椎間板ヘルニアに半年間苦しめられ、心配させた妻へのお詫びの気持ちから出かけました。言葉は殆ど駄目でも何とかなるものと安心しました。機会があれば何処へでも行こうと思いました。40代で5回、50代で13回、60代で15回、70代で6回と、いつの間にか39回（妻とは30回）となりました。

60歳を過ぎた頃、海外旅行のベテランの先輩からアドバイスを受けました。「体力の落ちないうちに、行きたい所をリストアップし

て一番遠い所から行つたらどうか」。早速、マチユピチュ・ナスカ・イグアスにチャレンジしました。10日間のハードコースでしたが、同行者にも恵まれて、（今も年賀状を往来している）素晴らしい旅となり、その後は、南アフリカ、北欧四か国、モロッコ、スペイン、ポルトガル、トルコ等十日間コースを楽しんできました。

海外で初めて経験した事も多いです。ナスカではセスナ機、アフリカのヴィクトリア湖ではヘリコプター、オリエント急行や南アフリカのブルートレイン等豪華列車も楽しみました。エジプトのピラミッドやモロッコでは、月の砂漠でラクダに乗りました。北欧の大型クルーザーでは、白夜を体験。機内より丸い虹を見ました。

私の趣味は、読書と短歌・川柳、囲碁・将棋。長い機内では読書のチャンス。いつも5〜6冊持参します。目が疲れると短歌等を作ります。詰碁・詰将棋の問題集があれば、2

〜3時間は苦になりません。気力、体力の続く限り、海外には年に一回は出て行きたいものです。ジパング倶楽部に掲載された短歌の一部です。

念願のオリエント急行に妻と乗り

スタンド赤き窓辺に座る

モスクワのポプラ並木の街角に

雪の降るがに綿毛の積もる

マチユピチュの段々畑の石段の

横を流れる石の水道

新しい仲間との交流

埼玉会 河合正人



本年3月に42年間勤務した会社を卒業しました。4月から、ゴルフの回数を見

増やそう、妹一家と一緒にいる母親の顔を見る回数を増やそう、趣味の書道の練習をする

時間を増やそう、と決めたのですが……。

縁あって、4月から間隔を開けず週4日仕事をすることになり、なかなか目標通りに行かない言い訳として自分自身に納得させています。

2年半前に書道サークルに入り、月一回例会に参加しています。会のメンバーは12名、平均年齢は70歳直前です。仕事も学校も全く違う人達の集まりですが、自分にとっては全く新しい世界で、その仲間との交流は新鮮で有意義だと感じています。自慢はまだ一回も例会を休んでいない事です。書道の腕前は一番下手だと自覚しています。何しろ他のメンバーは、皆さん10年以上の経験者ばかりで、そこに新参の自分が飛び込んだ訳です。どうしても会社の仲間との交流が身近で一番多く、次に学生時代の仲間との交流でしょうか。会社勤めの人間は、往々にして地域社会との交流が下手です。自分も当てはまりますが、その自分が地域社会とも違う趣味のサークルをこれ程大切にし、継続出来るとは最初は思っています。

写経、仮名まじり文（短歌）、太筆で新聞紙全面に一字書き、半切に詩などの文章を書く等、バラエティに富んだ題材に挑戦して

います。今は王羲之の臨書に取り組み中です。

これが超難解で当用漢字に無い文字で、しかも行書、草書では、思う様にイメージが湧きません。筆順からしてどうなっているのだろうかと思案する場面も。指でなぞりながら文字のイメージを高めていくうちに何とか筆を持つ準備が完了。まあ、跳ねやら止めやら、一体どう書いているのだろうと、想像するのが楽しい。臨書なんて真似すれば良いだろうと高を括っていたが、こんなに難しいとは夢にも思えませんでした。昔の人がこの跳ねはこうだ、この止めはこうだと、云々かんぬんと議論した事が分かる気がして来ます。

これでは飽きる筈が無いと……。
まだまだ続けて行ける気がして来ます。
来年10月の次回作品展に向かって、題材探しの開始です。

下手の横好きあれこれ

広島支部

渡子

忠



退職を機に平成19

年日退協に入会し、

登山・詩吟・男性料

理教室・エスキート

ニス・カラオケ等の同好会に参加しています。

登山・学生時代から一番の趣味で、就職してからも会社の山岳部に入り、退職後もOBとして参加し、広島市近郊や県内の山を中心に年間20日位は山に登っていました。平成9年60歳の時数えてみると、作家深田久弥の選定した「日本百名山」のうち26山に登っていました。それからは遠出の登山は百名山を優先しました。本誌平成20年1月号の談話室に「日本百名山を目指して」と題して寄稿した時は2名山を残していたが、その年の7月に71歳で、八ヶ岳の赤岳と上高地の焼岳に登り、やっと百名山登頂を達成しました。20歳で鳥取県の大山登頂後半世紀を要しました。その後も、会社山岳部OB会で年間20山、日退協山の会で年間9山に積極的に参加し、その他のプライベート登山を併せ年間約40山に登っていますが、今後もそのペースで続けたいと思っています。

詩吟・昭和53年会社の同好会に勧誘されて入会しましたが、あまり熱心でもありませんでした。日退協へ入会し詩吟の会に入りました。月一回の稽古は熱心に続けています。会員数20人位、ベテラン会員が先生となり、

漢詩の読み方・語句の意味・解釈・鑑賞・詩の形・作者略歴・吟法等を勉強した後、全員で合吟、更に各人で独吟しています。腹式呼吸で腹の底から大声を発し、健康増進・認知症予防に有効です。

エスキーテニス…終戦後広島で生まれたスポーツ。羽根のついたゴルフボール大のスポンジボールを木製のラケットでネットを挟んで打ち合うテニスに似たスポーツです。コートは幅4メートル長さ8メートルでネットの高さ55センチメートル。屋内でも屋外でも可。同好会は月2回屋内で、約15人が参加、インストラクター指導のもと2時間練習しています。テニスコートより狭く、卓球ほど動きが激しくないので、高齢者向きのスポーツであり、楽しいです。いつも次回の練習日を心待ちにしています。カラオケ…「演歌ミニ道場」が同好会名で、月一回の例会時には参加者十数名が籤引きで歌う順番を決め、各人の一曲目が一巡して休憩。以後二曲目・三曲目を歌い終了です。昭和45年以前の演歌を選曲、全員起立して歌う、人の歌唱中は私語雑談禁止、終了まで飲酒禁止。終了後は希望者で飲酒飲談しています。

「二期一会」

山口 千津恵



平成26年12月に退職をして2年6ヶ月が過ぎました。現在もシニアスタッフとして引き続き勤務しています。今回は在職中から続けている茶道の子供授業についてご紹介させていただきます。毎年2月になると文化の継承の一環として小学校での茶道体験授業に数人の茶道の先生方と伺います。対象は小学校五年生で元気いっぱいの子供達と一緒に

にお茶の基本を学びます。挨拶の仕方、畳の歩き方、お茶の点て方飲み方、お菓子の食べ方を実際に行います。

歴史の授業がまだないそうで茶聖「千利休」について子供達はほとんど聞いた事も無いようですがお茶本来の「楽しみ」を共に体験しています。

当日は教室に畳を敷き詰め黒板に軸を掛け花を活けお釜や茶道具を配して仮の茶室を設えました。畳敷きの教室に入ってきた子供達は何をするのかと不安な顔で慣れない正座に

悪戦苦闘しながらお菓子を頂きクラスメートの為に茶筌を握りお互いにお茶を点てました。次第に子供達は夢中になりお互いに美味しい？と尋ね合う声が聞こえてきました。「もう一度お茶を点てたいです」「和菓子美味しい、何処で買えますか」「お母さんに買ってもらおう」と返事が返ってきて35人の子供達と賑やかで忙しくも楽しい時間になりました。

45分間の授業はアツという間で「お茶が美味しかった人」「お菓子が美味しかった人」「足がしびれて大変だった人」など訊ねると子供達が元気に手を挙げて答えてくれました。そしてすっかり皆の気持ちが一つになった頃チャイムが鳴りました。

最後は皆さんで正座して終わりのご挨拶をしました。始めのご挨拶の「お願いします」の声は小さかったですが終わりの「有難うございました」の声はとてもしっかりとした声で聞かれました。聞いて子供達と一緒になって涙いながら、と痛感し私まで勇氣が湧き希望を感じました。

お昼の給食を子供達と一緒に楽しく頂き子供達の会話をすっかり引き込まれてしまいました。1日3クラスの体験授業で沢山の元気を子供達から貰い、帰りには疲れより笑顔があふれました。

2020年の東京オリンピックも目前になってきました。子供達が一服の美味しいお茶を忘れず「おもてなしの心」に繋がっていく事を願っています。

9月からは親子の茶道教室も始まります。「一期一会」の心と「今」を大切にしてこれからはチャレンジ精神を持ち続けたいと思います。

『書』は好きですか

山中 弘（號 孔心）



昔はどの自宅にお邪魔しても、床の間に掛軸が掛かっており、書であつたり、

日本画や水墨画があつたように記憶しておりますが、最近は何れも見掛けなくなりました。またパソコンやスマホの普及が著しく、書くと言うよりは音（オン）で呼びだすことが主流になり、漢字も単なる表音文字化しているように思われます。封書や葉書も衰退し、切手の売上げも大幅に減少しているようです。

◇表意文字の面白さ

私達が学校で習った漢字は表意文字で英語

等外国語の表音文字とは趣を異にしているように思われます。漢字やエジプト文字は象形文字で文字自体が意味を持つ表意文字です。例えば「心」は正に心臓そのものを表していますし、「人」「日」「川」もすぐに判ります。表意文字であるが故に書くことを表現するときに面白味と深みがあるように思います。

◇上手い文字

よくあの人は字が上手いと言いますが、それは字形が美しく、形のバランスが良く書けている人を指すように思います。それに筆やペンの持ち方が正しい人だと思えます。

1972年9月29日 日中国交正常化の共同声明の調印式で中国側の周恩来首相の調印の様子が報道されましたが、背筋を伸ばし筆を真っ直ぐに立てて書いたサインの字の見事に驚愕しました。「小異を残して大同につき（中国語表現）」考えと共に強く印象に残りました。

◇画展と書展

「画展はいろいろバラエティに富んでいて判り易く色彩も豊かであるが、書展は何が書いているのかも判らず暗いネ」と言われます。確かに作品の横に出典や原詩が書いてある書展は少なく不親切です。そこで書展では作品

の何を見るかを考えてみましょう。

書展は「漢字」「かな」「調和体（漢字かな交じり書）」の三種類です。

漢字は五体、楷書、行書、草書、隸書、篆書があります。

見所は、形（字形）、大小、墨色（濃淡）、バランス（余白の美）、技巧（滲み、かすれ）、品格。品格は表現しがたいのですが、作品の向こう側から強く訴えて来るものです。

書展第一室には高名書家の作品があります。これは是非見て下さい。

書は会派により字形が様々です。お知り合いが出版されていれば名字と號をお聞きして、展示会場索引から展示室を探し直行されるのが良いでしょう。

後は気に入った作品の前で対話する。

書展は全部見ようとすると出展数も多くの展示会よりも疲れます。通常、出展者は大体百〜三百枚習作し出展作を選ぶと言われています。

◇老化防止

書は頭と末梢神経を使いますので、一日に百文字を書く、千文字を読むを励行して見て下さい。老化防止に最適です。

「週刊読書人」の

編集長が
すすめる本

週刊読書人編集長 明石健五

昨年十一月のアメリカ大統領選では、事前の予想を覆すかたちで、ドナルド・トランプが勝利し、第四五代アメリカ合衆国大統領に就任しました。選挙後、勝利の理由はいくつか報じられてきました。「社会に鬱積していた不満を、トランプがより多く受け止めた」「民主党政権に対してアメリカ市民が駄目出しをした」「中間層が崩壊し、二極化した結果による」。就任後に乱発された「大統領令」にはじまり、「ロシアゲート疑惑」「パリ協定からの離脱表明」と、世界一の大国は、混迷を極めていくようにも見えます。果たして、アメリカは今どこに向かおうとしているのでしょうか。次の大統領選予備選挙は、早くも来年はじまります。トランプを支持したベースにある「反知性主義」とは何か。また現状のアメリカを考えるために、三冊の本をご紹介します。

●森本あんり著『反知性主義』

(新潮選書)

歴史を振り返れば、アメリカでは、特定の人々が権力を持つことに、常に反対の意思表示をしてきました。知的権威やエリート層に対する懐疑的な視線。歴史学者リチャード・ホフスタッターが、そのことを「反知性主義」と名付けました。本書は、この反知性主義の歴史を通観し、その問題点を探っていきます。先の大統領選は、まさに反知性主義の原理が未だに機能していることを明確に示しました。この言葉を形作ってきた様々な背景を理解することなしに、トランプの「劇的」勝利も、現在のアメリカも見えてこないと言っているでしょう。反知性主義を、単に知性の欠如している状態であると理解してはなりません。「知性と権力の固定的な結びつきに対する反感」「知的な特権階級が存在することに対する反感」と受け止めることが、何よりも重要なことです。

●『リンカーン演説集』

(高木八尺・斎藤光沢／岩波文庫)

大統領選でもうひとつ問題とされたのが、アメリカの政治家の語る言葉の貧弱さでした。トランプのみならず、それは民主党側も同様です。いつから、

これほど言葉が軽くなってしまったのでしょうか。アメリカ史上、「名演説家」と言えば、まず思い浮かぶのは、リンカーンではないでしょうか。本書は、「リンカーンの演説ならびに書簡集の中から、もっとも大切な代表的なものを選び出すことと、これに解説をつけること」によって、大体相俟って、リンカーンの生涯の意義を、読者の心に浮き上らせようと試みた」（あとがき）一冊です。有名な「ゲティスバーグ演説」や「第一次・第二次大統領就任演説」も収録されています。移民の国だからこそ、誰にでも理解しやすい平易な言葉で書かれた文章の数々。現大統領の就任演説の言葉と読み比べてみるのも面白いかもしれません。

●渡辺靖著『沈まぬアメリカ』

(新潮社)

「世界の大国」と言われたアメリカ合衆国の力は、以前と比較して、本当に衰えてしまったのでしょうか。「アメリカ衰退論」は、今にはじまったことではありません。一九七〇年代のドル・ショック、二〇〇八年のリーマン・ショック、そしてトランプ大統領の「世界の警察をやめる」発言など、ことあるごとに、大国の衰退は語られてきました。しかしながら、現実的に

は、ハード・パワー（軍事・経済）の面はもとより、ソフト・パワー（文化）の面でも、アメリカの優位は大きく揺らいではいないと言えます。本書は、ソフト・パワーの観点から、アメリカの世界への影響力が未だに続いていることを提示します。いわば時代を超えて存在する「文化的なレガシー」を、綿密な現地取材に基づいて明らかにしていきます。メガ・チャーチ、政治コンサルタント、ロータリー・クラブ、すべてがアメリカ発祥で、今や全世界に広まり、現地で根付いているものなのです。

.....

『週刊読書人』は二〇一八年に創刊六〇周年を迎える、歴史ある書評専門紙です（毎週金曜日発行）。一年間に八万点以上刊行される新刊書から、毎週一〇〜一五点ほどを、書評やインタビュー・対談等を取り上げます（年間総計約七〇〇点）。文学賞の受賞会見や出版界の出来事なども幅広く取材し、記事にしています。

◆定期購読のお申し込み

①1621-0805
新宿区矢来町109 (株) 読書人
電話・03-322601579-1
※定価2800円×50週140000円を
130000円とし、送料をサービスいたします。

ひとこと 「私のちよっとしたオシヤレ」

●私のちよっとしたオシヤレ

広島支部 尼子元照

若い頃はワイシャツとネクタイに気を付けていました。ワイシャツはシャツ店やデパートで体に合うものを作ってもらっていました。しかし、退職後はスーツを着る機会もほとんどなくなり、最近はジャケットをその場の雰囲気にならなくても合うよう着まわしするとか、チョッキを着てみたり、明るい色の物を身に着けるとかして、ちよっとした気配りで老人臭くならないようにしています。

●高齢者のオシヤレの心得

神奈川会 飯田吉辰

「おじいちゃん イイネ！」と言われるためのオシヤレについて一言。先ずはファッション。私たちの年代は黒、紺、グレーの暗色に偏りがちですが、思い切つて寒色・暖色を問わず明るい色のアイテムを1点加えるだけでかなりオシヤレに変身します。次は姿勢。前屈み、足元目線のちよこちよこ歩きはNG。背筋をまっすぐに保ち、正面を向いて、大股でゆつ

たりと歩けば5〜10歳若くなります。

3番目は心のオシヤレ。頑固一徹の年寄り是最悪です。自分の主張は程々にして矛を取めましょう。特に女性や子供、家族に対し、意識して穏やかに接すれば「可愛いおじいちゃん」と慕われること必定です。

●私のちよっとしたオシヤレ

広島支部 伊藤正雄

広島市のご真ん中に「シヤレオ」と言う地下街があります。オシヤレのオを最後に回した造語です。オシヤレをしようにも素材が悪く、グサイ私にこんなテーマの依頼が来るなんて？ こんな私ですが、昨年の広島は「カープ女子」と「神つてるカープ」で燃えた一年で、決して「カープ女子」の気を引くためではありませんが、年中、出かける時の帽子にはマスコットの「カープ坊や」が載っていました。

●私のちよっとしたオシヤレ

神奈川会 榎原 勝

私のオシヤレと言うか、こだわりは、現役時代の結婚後、女房の勧め

で、スーツのスボンの下に、下着代わりに、暑くても、寒くても、ステテコを穿いていました。新入社員時代は、スーツを新調する余裕も無く、作業時も、外回りの時も同じズボンで過ごしました。そして、おかしなもので、作業着に着替えた時や、休みの外出時に穿くジーパンの下にはどんなに寒くても、ステテコを穿かないこだわりがありました。今は会社勤めも終えて、年齢のせい、冬場は、ジーパンの下にタイツを穿いて外出をしておりますが、オシヤレとは、生き方に通じます。人に対して、好感を与えようとする努力。

誰しもがきつと、こう在りたいと言う理想。それに近づく様に振る舞うよう、自分を高める事が出来る努力こそが、オシヤレだと思います。その事を忘れずに、これからも生きていきたいと思います。

●私のおしゃれ 京葉会 大里璋子

日本の民族衣装を纏うなんて大げさだが、着物でのおしゃれは楽しい。着装に少し時間がかかるが、少々太っても、骨粗鬆症で背丈が縮んでも心配いらぬ。季節に合わせて、裕、単衣、薄物が決まり、それに合

わせて帯をあてがい、帯締め、帯揚げをセットし、着て行く処を考えて、あれこれ考える楽しい一時である。最近は気温が高めで、早くから真夏日となつたりして、着物泣かせの日が多くて困る。

●毎朝の顔色 広島支部 大野節子

私自身、自慢できることは二度の出産以外、病院に入院したことがないことです。毎朝の起床時に鏡に映る自分の顔色が、ほんのりピンクで俗にいう「血色が良い」ということです。しかしこれからは年を重ねていく訳ですから今までのような訳にはいかないかもしれません。今まで、ほとんど病院にも行かず、くすりも飲まず自然体でいることに感謝しながら残りの人生を悔いなく過ごしていくのが現在の心境です。

●お洒落な空間で

広島支部 木下義雄

私は、健康を兼ねて、ウォーキングを楽しんでいる。出かける時は、一冊の本を持って行く。途中で、自宅から一時間ほどの美術館に立ち寄る。その美術館は、ロビーの全面が総ガラス張りとなつており、隣接している庭園が、まるで絵画のように、

四季折々の風景を満喫させてくれる。そんな、お洒落なロビーの一角で、好きな本を読む。私の贅沢なひと時である。これからも、健康で、お洒落に過ごしたいと願っている。

●帽子へのこだわり

広島支部 姫野甯尋

リタイアした後、日常的に帽子を被るようになった。私の家内が若いころより日常的に帽子を被る習慣があり、私に帽子着用を奨めてくれたくれたことも一因である。家内から譲り受けて、現在私が使用している帽子もある。ボルサリーノのような高価な帽子は持ち合わせていないが、海外旅行や国内旅行で気に入った帽子を買う機会も多い。帽子を着用する時に、旅先のことを思い出すことは楽しいものである。紫外線対策・寒さ対策と禿隠しを兼ねて今後も帽子を愛用していきたい。

●私のちよつとしたおしゃれ

京葉会 平井勝子

私がおしゃれとして心掛けている事、毎月一回の美容院通いです。昔から髪は硬く多い上に癖っ毛、月に一回のカットは欠かせません。パーマは隔月にかけていますが、白髪が

増えてからはパーマと染めを月交替

です。それでも通う事が苦にならないのは美容師さんのお蔭。26年余りの付き合いで、腕が良く・馬が合う・話題豊富・相談事のアドバイスも的確で心身共にリフレッシュしています。そろそろ美容院に行こうっと！

●私のチョットしたオシャレ

西東京会 比留間文子

身体も心もたるみ出した、今日この頃。明日は気合を入れてオシャレして、贅沢で豪華なランチでも？お芝居？それとも銀座辺りで、ぶらぶらとウインドウショッピングでも？と、ウキウキ夢想しながら、楽しく嬉しい気分で見つきました。「いざー」と思いきや、当日になってみるとなんと、相変わらずの家事に追われ、孫に追いかけられの普段と変わらない一日でした。残念ながらワクワク優雅で楽しく、思いをめぐらせイメージしただけで、私のチョットしたオシャレは、いつもと同じ平凡でバタバタ忙しく過ぎてしまい、オシャレとは程遠いおばあちゃん、終わってしまいました。

●鉄則

埼玉会 藤田信一

活動中の介護施設のボランティア、

小中学校のチャレンジ・スクールと地元ガイドの共通点はなんでしょう？

専門用語を平易な内容に直し、具体例で話すことです。目線を幼児に置き、相手の立場で考えることです。口から先に生まれたジャパネットタカタに匹敵する先天的能力を生かし、一期一会の出逢いが、心身共に楽しくなる「笑身」の場になる楽しい時間作りを心がけています。

●私のオシャレ心

広島支部 三崎昭幸

歳も70才過ぎると、身体全部に変化が顕著になります。私の場合には体重が増加し、どこがウエストかヒップなのか解らない状況です。先日、医者からは減量するようにとアドバイスを受け、2か月後には、その結果を報告するよう指示されるに至りました。そのため私としては一大発奮して、高低差約4メートルあるうと思われる坂道を4000歩位で歩く減量作戦を取らざるを得ないことになりました。しかしこの作戦の下心にはオシャレ心が見え隠れしており、願わくはドライバーの飛距離を少しでも伸ばしたい願望が本音です。

●ちよつとした私のおしゃれ

西東京会 湯藤 哲

50年超前に営業に配属された時の先輩からのアドバイス。初対面の方と面談する際は特別に身嗜み(ちよつとしたオシャレ)に気を遣えと。相手方は、自分に面会を希望してきた者がどれだけ熱意を持って会いに来たかを第一印象で推し測っている。用件が始まる大切な勝負の第一歩である。確かにこの事は自分が逆の立場になってもそう感じた。勿論、贅沢品や派手さでは好印象は与えない。

●私のちよつとしたオシャレ

埼玉会 吉田昌子

人生を長く生きて「身なり」を構えば構うほど、透けて見えていた年令がしつかり見えるようになります。ならば、とても平凡な事ですが、「心のオシャレ」をすることにしました。私なりのそれは一人一人を大切に思う事だったのです。今から考えると、若い時は多勢の方々と雑々です。一人一人の想いをくみ取り誰にも寄り添える心を持ちたいのです。今、このオシャレを修行中です。

イベントだより

囲碁会

■第53回 囲碁大会

春の囲碁大会が、5月31日(水)に市ヶ谷の日本棋院で参加22名で開催されました。

増渕運営委員長から、対局ルール等の説明の後に開会宣言があり、対局が開始されました。

初参加が2名、女性も3名参加してくれたこともあり、和やかな中で熱戦が繰り広げられ、左記の優績者が決定いたしました。

- Aクラス 優勝 中鉢 進 五段
二位 小川 浄二 九段
 - Bクラス 優勝 河野 健策 二段
二位 佐藤 正吉 四段
- 各クラス優勝者のコメントです。

Aクラス 中鉢 進 五段
70才で退職した際に、伴内先輩のご紹介でこの会に加入し、以来13年余春秋の大会にかかさず参加いたしました。しかし会員のレベルが高く、今回初めて念願の優勝を果すことが

出来て、嬉しい限りです。

囲碁は近くの西荻窪支援センターで週1回月曜日に打つ位ですが、次の開催に向けて少しギヤアップしたと思っております。

Bクラス 河野 健策 二段

最終戦で3勝1敗が4名いたにもかかわらず、3回戦までの3連勝により優勝という栄誉をいただきました。辺や隅の死活場面が数回ありましたが、全てに読みが当たり好成績につながったのかなと感じています。スマホでの詰碁練習が功を奏したかと思っています。

今年古稀を迎える私もスマホを駆使していますので、まだ「ガラケー」をお使いの方はチャンスがあれば、是非スマホにチャレンジして下さい。
(上村洋一)

絵手紙&小品絵画教室

隔月に開催していますが、少ない人数ながらも、描きたい方が集まり、講師の築山洋子会員(国画会準



作業風景

会員)の指導のもと、毎回きちんとした作品に仕上げ、笑顔とともに持ち帰る楽しい時間と成っています。多くの方の参加を期待申し上げます。
(安達のり子)

江戸東京歴史散歩の会

■第82回 雑司が谷七福神巡り

(1月6日 参加者44名)

池袋という賑やかな街から、歩いてわずか十分ほどのところに、江戸時代から続く歴史と文化の薫る雑司が谷地区があります。ここに町おこしのため地元有志の方々が平成23年に始めたのが雑司が谷七福神巡りです。あまたある都内の七福神の中で出来る最も新しいコースです。またこの特徴は寿老人の代わりに吉祥

天が入っていることです。

当日は天気晴朗なれども北風が強く、寒さが身に染みる一日でしたが、寒さに負けない44名の元気な老若男女の皆様にお集まりいただきました。まずは集合場所の護国寺門前で記念写真を撮ってからさあ出発。最初に参拝したのが清土鬼子母神(吉祥天)。吉祥天は鬼子母神の娘神に当ります。次の清立院(毘沙門天)は雨乞いと皮膚病の祈願寺として知られていて、木彫毘沙門天像は区指定文化財に指定されています。境内では甘酒も売っていて、皆さん至福の



護国寺門前にて

一杯で体を温めていました。

こちらでコース途中の雑司が谷霊園で一休み。夏目漱石、永井荷風、竹久夢二等多くの著名な文人墨客の墓があるところで、園内をのんびりと散策しました。

続いて大鳥神社（恵比寿神）にお参りしてから、鬼子母神堂（大黒天）に向かいました。ここは安産・子育ての神様として広く信仰の対象になっていて、驚くばかりの大きな本堂は豊島区内の最古の木造物といわれています。ここで売られているスキの穂で編み上げたミミズクの人形は、古くから縁起の良いお土産として知られています。

一行は観静院（弁財天）を経由して中野ビル（布袋尊）に到着。ここは神社の建物ではなくビルの一角に神様を祀つてあるという非常に珍しいもので、おそらく都内の七福神の中でもこういう例はここだけではないでしょう。最後に仙行寺（福祿寿）に寄つて今年の七福神巡りが目出度く終了しました。（佐久間征二）

■第83回 旧中山道板橋宿散策

（4月18日 参加者44名）

集合場所の板橋駅東口前広場で集



板橋駅東口前広場にて

合写真を撮つた後スタート。散策の最初は広場に隣接して在る新撰組局長近藤勇の墓所。慶応四年に新政府軍の本陣があつた板橋で処刑された。ここから宿場情緒を感じさせない普通の商店街の旧中山道を500メートル程進み中山道六十九次のうち江戸から数えて一つ目の板橋宿に入るが、宿場の右手前にある東光寺を訪れた。境内には板橋区登録有形文化財に指定されている道中守護の六道利生地蔵尊と全国で最も優れた庚申塔と言われる青面金剛像刻み庚

申塔の二石像と宇喜多秀家の供養塔があつた。

旧中宿通りの商店街に入り最初のより所は観明寺。山門が加賀藩下屋敷から遷された赤門で、入口に都内最古といわれる庚申塔があつた。その近くに平尾宿脇本陣跡がある。

板橋宿はそれぞれに名主が置かれた三つの宿場の総称で、名主屋敷を板橋宿（上宿）本陣、中宿脇本陣、平尾宿脇本陣の陣屋としたが今はその建屋は無く、名主の子孫所有のビルとなっている。商店街を遍照寺、板橋宿本陣跡、宿場の飯盛女の投げ込み寺であつた文殊院、中宿脇本陣跡と進み石神井川に架かる板橋に着いた。「板橋」の地名の由来元と言われ、江戸時代は木製の太鼓橋であつた。春は周辺の桜がきれいだそ

うだ。橋を渡ると上宿となり、三分程進むと縁切榎に着いた。その枝下を嫁入り婿入りの行列が通ると必ず不縁になると信じられた榎がある不吉の名所。小さな祠と榎があるだけの狭い境内に縁切り願いの絵馬が沢山掛かつていた。徳川家に降嫁する皇女和宮の一行は関東下向路として中山

道を通過。板橋本陣に入る際は不吉とされる縁切榎を嫌い、前もつて敷設されていた迂回路を使って通過したとのことである。

史跡と盛況な宿場名商店街の雰囲気を楽しんだ一日でした。

（星 洋二）

園芸クラブ

『5月23日（火）横須賀くりはま花の国 ポピー鑑賞会』

（参加者9名）

くりはま花の国は広い敷地を利用して、春はポピー・秋はコスモスの花畑で知られる横須賀市営の植物公園です。

京急久里浜駅に集合、駅から歩いて15分程で「くりはま花の国」に到着、正門近くにある和風レストラン「うおくに」で昼食。食事後、入園して花の国正門から見渡すことのできる斜面いっぱい山裾まで広がるポピー園を小一時間散策しました。ポピー園では、7割方を占めるシャレーポピーが丁度見頃を迎えていて赤やピンク、白など美しい花色の一重咲や八重咲の花が咲き乱れ、風に

なびいて素晴らしい風情を見せていました。また、アイスランドポピーは見頃をやや過ぎ、カリフォルニアポピーは咲き始めたところでした。

そもそもポピーはケシ科ケシ属に分類され、約60種ありますが、基本的には一年草です。鑑賞用として栽培の多い種類は、欧州原産のヒナゲシと呼ばれる品種（英名シャーレーポピー、日本では虞美人草ともいう）とアイスランドポピー（シベリアヒナゲシ）の二種類です。カリフォルニアポピー（和名花菱草）は濃いオレンジ色が代表的ですが、ヒナゲシとは異なる属に分類されます。ポピーを鑑賞した後、売り物のフラワートレインで園内を移動、ハーブ園を見学、カフェレストランに設けられた展望台から東京湾や房総半島の眺望を堪能するなど、癒される時間を過ごしました。（杉山 功）

鎌倉探訪

第122回 鎌倉探訪

（4月3日 参加者33名）

光彩陸離たる作品を残した文豪の夏目漱石。今年は漱石生誕150年

にあたる。これに因み「漱石生誕150年、鎌倉のゆかりの地を巡る」が今回のテーマ。

北鎌倉駅の東口改札は円覚寺の門前にある。集合した参加者は、そのまま石段を登り、総門と山門を潜って、右手の塔頭帰源院の茅葺門から結界へ入る。普段は立ち入り禁止の場所だ。此処は別天地。庭に立つと、新緑の周囲の丘が目に入るばかりで、眼下に横須賀線が走っているとは信じ難い静謐の空間。書院の前に「佛性は白き桔梗にこそあらめ」の漱石の句碑がある。昇堂して富澤宗実住職のお話を拝聴する。

漱石が帰源院に止宿して、円覚寺で参禅したのは明治27年、小説家になる前の28歳。悩みは解決しないまま下山したが、その時の経験が後日「門」の素材となった。時が下って大正3年、現住職の祖父富澤珪堂師と漱石との親交が始まった。当時、師は神戸の禅寺の若き雲水で、上京の折に漱石邸に寝泊まりし世話になつていた間柄。その後、漱石が逝去し、昭和2年に偶々帰源院の住職に就いた師は、33年前に漱石が帰源院に止宿していた事を初めて知り、



円覚寺境内にて

和辻哲郎等々。また、漱石は大正元年に当寺の住職となつていた釈宗演を訪ねて来たが、その時の経緯が門前の石碑に記されており愉快。当寺は四季折々の花の寺としても名高く、常に参拝者で賑わっている。

横須賀線の踏切を渡り、建長寺へ向かう。鎌倉五山第一位の伽藍配置は威容を誇っている。近年は小泉淳作画伯が描いた法堂の竜の天井画でも有名。漱石の句に「鐘つけば銀杏ちるなり建長寺」があり、正岡子規の有名な「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」へ繋がるのだが、さて皆様はどちらに軍配を上げるでしょうか？

因縁に驚いたとのこと。書院の扁額には、漱石から師に宛てた手紙が表装されており、文豪の意外な一面が表れている貴重なもの。

現住職の話に出てくる漱石は、気難しい文豪ではなく、若者鼻根の市井の世話焼きオヤジに思えた。講話の合間に鶯の囀りが聞こえ、塵裏に閑を偷む心地だった。円覚寺境内で弁当をつかい、仏殿や方丈、国宝の舍利殿を眺め、次の東慶寺へ。

巨福呂坂の切通しを越え鶴岡八幡宮へ着く。源氏の守り神として、鎌倉幕府に尊崇されたのみならず、その後も武家政権から手厚く保護されてきた全国有数の神社。鎌倉一のパワースポット。境内に広がる源平池を漱石も眺めたであろう句がある。「徘徊す蓮あるをもて朝な夕な」

通称縁切寺には、漱石山脈の人々が数多く眠っている。安倍能成、岩波茂雄、野上豊一郎・弥生子夫妻、

八幡様から真直ぐに海へ延びる道が若宮大路。北条政子の安産祈願で作られた段葛が中を通っている。新装なった此処を、花吹雪の下で、中村吉右衛門が通り初めをして喝采を

浴びたのが去年の春。漱石も友人や知人の別荘を借りて、家族らと鎌倉に逗留した折には、この界限を往来していたのだろう。「こゝろ」には鎌倉の海や街の描写が出てくるが、物語の「先生」が観光客の雑沓からふと現れて来るような気配さえ感じる。それが鎌倉という所かも知れない。漱石と鎌倉との縁を語り乍ら飲んで打上げのお酒が、一寸心に沁みる鎌倉の宵であった。(加藤文男)

■第123回 鎌倉探訪

(5月25日 参加者14名)

薄曇りの一日、カンカン照りの夏日でなくてよかったと負け惜しみを言い乍ら逗子駅に集合した参加者は、バスで先ず浄楽寺へ。車窓の右手には葉山の穏やかな海が見え始め、程なく目的地。浄楽寺の門前で朝礼を行う。今回のテーマは「三浦の芦名&秋谷地区で運慶真作の仏像や薬師如来と不動明王の同時御開帳を拝観する」。33年に一度の薬師如来、12年に一度の不動明王が重なって開帳されるのは、理論的には、何と132年に一度ということ、皆さんの期待が高まっているのが窺える。

芦名の浄楽寺は和田義盛創建の寺で、一説には、義盛が運慶に制作を依頼した仏像が、今回拝観の仏像だと推測されている。阿弥陀三尊像、不動明王、毘沙門天の五体はどれも運慶真作の証明がされている。運慶作と伝わる仏像は全国に30数体有ると言われるが、真作は10体余りだそう。五体の仏像は孰れも重厚な作りで、鎌倉武士が好みそうな姿や形だ。今回は是に加え薬師如来が無量寺から出開帳され拝観出来たので、御利益拔群となることだろう。

歩いて程なくの処にある寺院が秋谷の正行院。浄楽寺と同じく和田義盛ゆかりの寺である。此方のご本尊が薬師如来。先程の運慶仏とは違いう優しく細やかな作りとなっている。当寺には義盛の妻であった巴御前の遺髪が埋められた石塔があり、そんな所にも女性的な優しさの由来があるのかも知れない。

拝観を済ませ海の方へ下って行く、立ち並ぶ民家の中に立派な構えの門が姿を現した。若命家^{わかめい}長屋門である。白壁となまこ壁のどっしりとした作り。若命家は代々の名主として秋谷神明社の神主を務めてきた。

今でも敷地内にはご子孫がお住まいだ。小高い秋谷神明社へ上ると、境内からの眺めが素晴らしかった。

海沿いの道を歩き、昼食場所の立石公園に着く。崖の上にある公園の先に、有名な「立石」が海から突き出ている。安藤広重の浮世絵に描かれた通り、晴れていると西側に海越えの富士山と伊豆の山々の正面には大島がはつきり見える筈だが、今日は生憎の曇天で残念。此処もまるでご霊場の様な素晴らしい癒しのポイントだ。公園の彼方此方で楽しい会話が弾み、海を見ながらの健康な昼食会となった。

また海沿いの道を歩き、山へ少し入ると立石不動尊である。滝不動と呼ばれ、修験者に尊崇されたお不動さんだ。境内隅には7メートル程の



海から突き出る立石

滝があり、滝行を行う修験者が数年前までいたそう。

坂を下ると最後の拝観寺院円乗院に到着。手入れが行き届き、海に開けた整然とした境内。昇堂して不動明王像を拝観する。憤怒の形相の中に心持ち慈悲の眼差しを感じる。歩き疲れた私達を労って下されているのか、まだまだ修行が足らずと憐れんでおられるのか、御開帳の諸仏像の拝観を無駄にするなどの眼差しとも受け取れた。132年に一度の稀な出会いは、薬師さんとお不動さんと私達の共同作業でもあったのですから。(加藤文男)

カラオケ会Ⅱ

カラオケ会Ⅱのあゆみ

カラオケ会Ⅱの前身であるカラオケ愛好会の発足は平成23年8月9日。まだ協会本部が築地に在った頃です。当時銀座八丁目に夜は社交クラブで営業している所ですが昼間の空室をカラオケの場として開放して頂けるとの情報が、早速昼カラオケを予約し、協会の生活情報クラブの面々にて会場を訪れ昼カラオケの

券囲気を経験しました。時間は12時半～17時までの4時間半です。前もって連絡しておけば飲みものや簡単な昼食が食べられる様になっています。カラオケは歌い放題です。料金は料理の内容により3000円～5000円前後です。

その頃から昼カラオケが銀座でも定着してきたようです。

さて、私達の愛好会ですが、2月に1回、出席者10名前後で協会の正式のイベントではないですが、有志のあつまりとして活動してきました。クリスマスの時期にはサンタクロースのキャップを皆で被り、お酒が進むにしがたい、場は盛り上り楽しい一時をすごす事ができました。また、銀座の場所も経営者の都合



カラオケ風景

で転々と数回変わりましたが、それぞれクラブ経営者の御尽力により何とか継続して運営して来ております。お陰様で参加者も順調に増加しており、現在20数名に倍増しています。平成26年10月の当協会理事会におきまして正式にカラオケ会Ⅱとして協会の組織の一部になりました。従来からのカラオケ会をカラオケ会Ⅰとし、カラオケ愛好会がⅡとなったことで協会にはカラオケ会ⅠとⅡのグループが並存することになりましたが、奇数月はカラオケ会Ⅰ、偶数月はⅡがそれぞれの会場で開催されます。カラオケ会Ⅱの会場は現在銀座の会場が手狭なため暫定的に千葉県松戸市で開催されていますが、ゆくゆくは銀座に戻る予定です。カラオケ会Ⅰ、Ⅱ双方に参加されておられる方もおりカラオケ会も益々盛り上つて来るものと思われれます。カラオケの効能として①カラオケを楽しむことでリラックスでき心身を癒される。②マイクを持って声を出す(大声で唄うこと)……一曲歌うと100メートル走ったと同じカロリーが消費される。等々が挙げら

れています。

上手に歌うためには腹式呼吸をマスターしましょう。そうすることによって新鮮な酸素を大量に体にとり入れることが出来ると言われています。皆様、カラオケを思い切り楽しみ老後の人生を謳歌しませんか。

(西納政光)

四季の会

■四季の会・京葉会合同イベント

「ボウリング大会」

(3月8日 参加者19名)

第二回目的「四季の会・京葉会合同ボウリング大会」は、田町の「東京ポルトボウル」で行いました。

会場では、世話人代表の挨拶の間も、参加者の皆さんはレーンを目の前にして、早くも競技モードに入り表情も引き締まっていました。

ボウリングブームを謳歌した世代が多かっただけに、マイボールやユニフォーム持参の方もおられました。

5レーンを借り切ったの進行となりましたが、どのレーンも皆さんの視線は一樣に結果のボードを注目しながらの熱戦となりました。



表彰式にて

ゲーム終了後は、併設レストランでバイキング料理の昼食を楽しみ、その後の表彰式では、参加者全員に各賞、参加賞をお渡ししました。

スタート時とは全く違い、すっかり寛いだ皆さんの表情を拝見して、幹事一同「楽しんで頂けた」と実感できホッとしました。(糸数富美江)

詩吟会

当会は会員12名(内女性3名)で薄井是道先生の下、月一回の定例会です。各自、先生の教材などにより自習して、その成果を吟じ個別に指導を受け又、相互に勉強します。

発足以来4年、コンクール出吟にも力を入れています。

最近の活動・イベントなど、予定を含めますと左記のとおりです。

○1月22日松口月域全国コンクール大会1名出吟（明治神宮参集殿）

○2月26日全国吟詠コンクール東京都予選会5名出吟1名入賞（1名東京都大会出吟）

○6月4日テイチク全国大会4名出吟。

○これからの主な活動は
・8月24日第4回温習会を予定。



昨年の茶道吟のコラボ（茶道師匠は当会の吉田女史）

日頃の練習成果を発表し合います。

・8月27日テイチク東日本コンクールに数名出吟。

・11月22日教吟大会に数名出吟など。

詩吟に興味をお持ちの方、ご入会をお待ちしております。（富田 博）

自然を楽しむ会

■第58回 片倉城跡公園

（4月13日 参加者26名）

前夜の雨は嘘のようで朝からカラッと晴れ上がり、とても良い日になりました。

JR横浜線片倉駅で参加者受付を出発したのが10時半。ほんの5分歩いて片倉城跡公園に入ります。

ここは室町時代の堅固な城跡で、八王子市が史跡と自然を守る公園として1972年から運営しているそうです。入るとすぐ多くの金属彫刻群に迎えられます。北村西望作2点のほか西望賞受賞の佳作ばかり。

園内の急な階段は避け、緩やかな坂を選んで歩き始めると、あるある、キブシ、バイモ、ニリンソウ、ヒト

リシズカ、スマレ、オオイヌノフグリ。イチリンソウの花も所々に。目を見張ったのはカタクリの大群生で、しかも彼方も此方も至る所で。美しい黄色の輝きに見えたヤマブキノウとリュウキンカ。丁度満開で青空を背景に白さがまぶしい沢山のソメイヨシノと、濃いピンクの枝垂桜の列。湿地にはミズバショウがひっそりと見せる白い花。

好天の下、色々な春の花が想像を超えて咲き競っている光景に皆が嘆息することしきりでした。

小高い本丸広場で昼食休憩しましたが、春のそよ風に桜の花びらが舞い散る中での食事は乙なものでした。

2時半ごろイベントを終わり解散。そのあと16名が八王子へ移動し北口ジヨナサンで行った懇親会は、賑やかに楽しく皆さん満足して再会を誓ったようです。

今回はミニミニ凶鑑#22を配布。

（店網俊夫）

水墨画教室

■第40回 東邦展開催

（於東京都美術館 4月19日～4月

24日）

40回を迎えた当展覧会は国内でもめずらしい書道と水墨画の公募展であります。我が教室からは7名11点と講師飛田硯水先生の大作3点が出品展示され、このたび受賞された方は次の通りです。

○読売新聞社賞

須釜汀水 「忍野村」(50号)

○東邦院賞

土井孝雲 「路傍白梅図」(50号)

受賞作品2点ならびに講師飛田硯水先生（当展覧会副理事長）の特別



読売新聞社賞
須釜汀水「忍野村」(50号)



東邦院賞
土井孝雲「路傍白梅図」(50号)

出品1点、計3作品を掲載させていただきます。受賞された方々に心よりお祝いを申し上げ、益々のご活躍を祈念致します。



特別出品
飛田硯水先生「無量寿寺」(150P)

■日本水墨院 平成29年度研修旅行に参加

5月18日(木) 佐倉・美術館・水郷小江戸佐原植物園等コース 大型バス1台・参加者は総勢37名。研修旅行の一環として行われるこの日帰りバスの旅に日退協水墨会及び常陽水墨会(飛田先生主宰)より9名が参加、幸い好天気恵まれたこの小旅行は、水墨画同好者の親睦にまさるに嬉しいものでした。(須釜栄作)

竹とんぼ同好会

私たちの同好会も今年で満七歳になります。日退協初めてとなる地域活動・「きたざわサロン」で第一回のメインイベントをお願いし、得意の竹の遊具を駆使した末松マジックで大成功の出発となりましたが、このキャラクターを是非日退協で發揮してほしいとお願いして発足したのが二〇一〇年九月のことでした。透き通るほど薄く削り磨かれた竹とんぼの羽根は、子供の頃のゴツゴツした竹とんぼとは異次元のもの。



「メトロノーム」の制作中

私たちに出来ることはほぼ完成された部品を提供され、ひたすらグラム単位でサンドペーパーで削りながらバランスを調整すること。

写真は「メトロノーム」の制作中のもの。輪ゴムを動力に好みのリズムを刻むおもちゃがまた楽しいのです。竹とんぼの制作でしみ込んだバランストこのような遊具で磨いたりズムを備えた私たちは無敵の高齢者となりました。(富川 正)

築地海鮮井川柳会

月例川柳会がある神田佐久間河岸の7階から見下ろす神田川は、やがて隅田川に合流するまでのひと時の静けさを嗜むごとくゆるやかに流れて行きます。川面に浮かぶ花筏の模様が消える頃周辺の風情は初夏の装いとなり、隣接の国際地域秋葉原の賑わいと融合して今年の夏の活気の季節を迎えます。

我々旬会の季節感覚も習慣的にこの時期に一年の変化の節目を感じ、暮から春と夏から暮への二つのサイクルで年の流れを捉えているかのようです。

〈平成28年 年度賞発表〉

新年句会は津田暹先生から恒例の年度賞発表と副賞授与がありました。

正賞 稲葉あさじ

太陽の涙をダムが待っている

准賞 平野ひま人

黄信号青のつもりで生きている

〈月例会選句〉

課題句は津田先生選、自由吟は互選句です。

課題句

「今年のニュースから」

お言葉が示す日本の高齢化 あさじ

「鳥一切」

平成のうちに会いたい青い鳥 あさじ

「豆」

八十路来て良い歯も余す豆の数 南穂子

「光る」

津波跡消して弥生の海光る ひま人

「暇」

あれこれと老後の暇が忙しい 一星

自由吟

その先を聞きたくなくてお酌する あさじ
断捨離の炎に過去が泣きに来る ひま人

メルケルのメインキャンプが嬉しい 一星
大きじも小さじも無く母の味 弘
寝たきりも長寿日本を支える あさじ

〈平成28年忘年会〉

年末句会のあと神田川沿い和風宴

席にて開催、津田先生発案の「気結折句」と「福引川柳」を軸に飲み放題食べ放題の盛り上がりでお互い一年の苦作秀作の御苦勞に乾杯しました。

(家根 一星)

デジカメクラブ

コンパクトデジカメから一眼レフまで全ての機種にわたり、花、祭り、歴史探訪、風景など対象もさまざま、デジカメクラブは各自好みの分野を自由に追求するグループです。コンデジ性能向上の影響や、メンバーの軽量志向などもあって、最近コンデジ派が増える傾向にあります。

例会ではパソコンモニターで各自が自分の作品を紹介し、全員で意見交換します。関連して、作品造りや、写真技術に関わる疑問の討論、新技術、展示会情報など話題はその時々あらゆる方向に進み、時にはカメラの領域を超えて時事問題などに拡散発展することもしばしばです。

撮影実践の場として、年数回の撮影会を行なっています。

今期は4月5日新宿御苑で桜満開の好条件で開催できました。しかし

外人観光客等で混み合い、混雑の中でどう作品に仕上げるか工夫が問われる条件となりました。5月の例会で検討会を行いました。持ち寄った作品は、クローズアップで桜が際立つよう狙ったものもあれば、あえて桜を主役にせず観客の表情を追いかけたものもあり、桜と人のある風景を広角でタイミングを計って切りとったものなど、それぞれの苦勞が偲ばれる内容でした。

検討会を通じて、自分とは異なった課題や情景の捉え方を知り、大いに刺激を受けました。テーマを広く捉えることや、狙いを絞ることの大切さ等教えられことの多い会でした。

デジカメクラブで一緒に学び、楽しみませんか？ 毎月の第一水曜日一時半、日退協会議室でお待ちしております。

(菅 克之)

パソコンクラブ

「第四次産業革命」真っ只中

今私たちの周りで日常的に使われているIoT（アイオーティ）、AI（エーアイ）という言葉を理解されているでしょうか？

「馬鹿にするな！」とのお叱りを想定しながら、チョット回りを見てみましょう。自動操縦カーは実用化寸前だし、もつと身の回りの変化を注意深く見ると、人の気配を感知して作動するエアコン、掃除ロボットの出現や繁盛しているスーパーやコンビニでは地域ごとに、週替わりで商品の陳列場所や商品そのものが変わっています。大量単一商品の提供ではもう勝負にならない時代。ビッグデータをAIで分析して社会にフィードバックすることで、個人一人ひとりの要望を安価に速く満たすオーダーメイド的な体制の社会に急速に変化してきています。

「お年寄りが今家から出てきてスマホで何かして、そのままどこかに出掛けました」。あれ！無施錠だ！でも大丈夫。スマホで施錠した結果、登録した施設ではこのお年寄りの行動が管理され、徘徊や防犯・防災の不安がなくなるシステムは実用化されています。パソコンはとっつきにくくても、スマホはもう実生活に不可欠な機器になりつつあります。

ITアレルギーを乗り越え、第四次

産業革命が進捗する社会と早く仲良しになった方が安心、安全、便利に暮らせるような気がします。

さて、日退協のホームページからPCクラブに好きな時にアクセスし東京散歩や時々の社会現象の面白い解説を楽しんでください。

(富川 正)

歴史を考える会

■第159回「わかりやすい日本近代史」

——大正時代、外交上の大失態を演じたこと——

講師 鈴木俊二会員（1月23日）

大正4年1月18日、日本政府（大隈内閣）は中国革命で大統領になったばかりの袁世凱に21か条の要求を突き付けた。その要求の中には中国の主権に干渉すると思われるものも含まれていたために、中国国民の強い反発を呼び起こすこととなった。さらに米國および英国も日本の対中外交方針に不信を抱くようになった。なぜこのような要求を出したのがあるうか。まず最初は外相加藤高明の満洲蒙古関係（日本の利権を承認させること）のみであった。ところ

が、これを知った元老、軍部、財界がいろいろの要求を出して来た。それを全部加えると21か条になったのである。そうしてその諸要求をそのまま中国に向けたことに問題があった。

日露戦争後、日本のリーダー達は次は帝国主義だと考えたようだが、この時期すでに世界は変化し、帝国主義は終りに近づいていたのである。

■第160回 「長篠の戦い」

講師 恒成憲一会員 (2月27日)

長篠の戦いは、数ある戦国時代の戦いの中でも型破りな戦いでした。異例の三重の土塁に馬防柵を設けた西洋式の野戦築城が功を奏しました。

この戦いの第一幕は、家康配下の奥平貞昌五百が守る長篠城を武田勝頼一万五千が攻撃。この長篠城攻防戦で、織田徳川連合軍三万八千による援軍の存在を敵に捕縛されながらも友軍に伝えたため磔になった鳥居強右衛門という英雄が生まれます。

第二幕は、武田軍主力の設楽が原への出陣、そしてその背後の鳶ヶケ山砦に対する家康配下酒井忠次による奇襲の成功が戦いの勝敗を決めます。そして、第三幕は本戦である設

楽が原での戦いです。武田軍は鶴翼の陣を敷き、左翼・右翼・中央部隊と連合軍に波状攻撃を加えますが、馬防柵と多量の火縄銃の威力により壊滅的な損害を受けます。この戦いの勝利により信長の覇権はほぼ確立され、永い戦国時代もいよいよ終焉に向かうこととなります。

■第161回 日本と朝鮮半島二千年

第1回 古代人々は海峡を越えた

講師 高川博会員 (3月27日)

大陸の水田稲作技術が朝鮮半島を経由して日本列島に伝わり弥生文化が始まる(最新の知見では紀元前8世紀頃)この稲作は急激な人口増加を伴い、集落の巨大化や階級の発生など、社会に大きな変動をもたらす。

57年、倭の奴国王(福岡)は、後漢の光武帝より金印を賜る。さらに3世紀には女王・卑弥呼が魏に遣使し、親魏倭王の金印を賜る。このように倭国は大陸の王朝へ朝貢外交を重ねて、求心力の向上を図り3世紀の半ばにはヤマト(奈良盆地)に都を定めて古墳時代の幕が開かれる。列島各地には前方後円墳などの大きな古墳が続々と築かれる。

力をつけたヤマト王権は、4世紀

後半になると、強大な高句麗の南下に危機感を抱いた朝鮮半島南部(伽耶、百濟)の支援要請に応じて出兵する。その裏には鉄素材の入手を確保するという目的もあった。

■第162回 日本と朝鮮半島二千年

第2回 任那日本府の謎

講師 高川博会員 (4月24日)

日本書紀には神功皇后の三韓征伐以来、倭は朝鮮半島南部を支配したことを記し、高句麗・好太王碑文にも、同様の状況を示すような文言が含まれていることから、かつては史的事実だとする見解が多かった。

しかし、近年の韓国南部における多くの遺跡調査の結果からは、それを否定し、独自の文化を持った伽耶諸国の存在が確実視されるようになってきた。

しかし一方では倭の遺物や倭兵派遣の痕跡も数多く発見されていることから、交易だけではなく、軍事力を背景にした倭の影響力も決して無視する訳にはいかない。特に栄山江流域の15基の前方後円墳は九州北部・中部の豪族の墓であることは間違いないと見られ、後の四県割譲の舞台ともなった。日本書紀にある任

那日本府の実態は、特命を受けて安羅に派遣された倭国人の集団であったろう。

■第163回 日本と朝鮮半島二千年

第3回 仏教伝来

講師 高川博会員 (5月22日)

六世紀、朝鮮半島では三国間の緊張状態が続いていたが、孤立した百濟は倭国に任那復興を持ちかけ、頻繁に軍事支援を要請、さらに同盟強化のために仏教を通じての交流を図った。渡来人を束ね、東アジアの情勢に通じていた蘇我馬子は、対立した物部を滅ぼし、政治の主導権を握ると共に本格的な仏教の導入を進めた。日本最初の寺院である飛鳥寺は一塔三金堂様式で、かつては高句麗の清岩里廢寺が源流だと見られていたが、近年の発掘の成果により、百濟の都・扶余の王興寺の流れだと見られるようになった。

中国で統一王朝の隋が興ると、聖徳太子は遣隋使を派遣し外交関係を築きつつ、積極的に仏教を取り入れ、仏教思想をもとに政治制度を整えた。仏教は急速に伝播し、舒明天皇が百濟大寺を建立するなど、巨大寺院の建設が進められるようになった。

神奈川会

■狂言の日「横浜能楽堂」

(3月12日 参加者15名)

昨年引き続きワーキングメンバーとその近親者を対象に狂言鑑賞会を実施しました。日本の伝統文化を身近で鑑賞し、魅力ある会の活動内容が広く紹介できればとの思いから始めたイベントです。

演題は狂言「因幡堂」と「木六駄」大蔵流。大酒のみの妻を離縁し新らしい妻を求めようと画策した夫とその裏をかく妻との駆け引きの妙を主題にした因幡堂。木六駄は主人の使いで荷駄を届けることになった太郎冠者が吹雪を避けて駆け込んだ茶屋で繰り広げる滑稽談。積み荷の中から先方に届ける祝いの酒を見つけ、一口のつもりから始まる成り行きが観衆を楽しませてくれました。

横浜能楽堂の狂言の日は毎月第二日曜日と決められており開演時間も午後2時から約2時間、チケット代

2000円と安くセットされているため気軽に鑑賞できます。今後会のサークル活動の一環として育てられればと期待しています。(長澤征次)

■「手話入門講座」を開催

(3月14日 参加者17名)

神奈川会として社会に少しでも貢献できそうな新たな活動は何かを模索する中、私共の年齢では難度が高いながら、関心も高い「手話」について実際に体験してみたいとの意見



手話入門講座

がまとまり、3月14日神奈川県民ホール会議室で、「手話入門」の講習会を開催しました。

当日はワーキンググループメンバー中心に17名が出席。講師は横浜市聴覚障害者協会会長(ご自身が聴覚障害者)で、ベテラン女性通訳を介して、手話の実態を分かりやすくお話し頂いた。これなら何とかなるのではと錯覚する程に楽しい一時間の講義はあっという間に終わり、質問も活発で有意義な勉強会でした。

お話を伺って初めて知ったことは、手話は世界共通と思っていたが、国によって大きく異なること、また、手話は意思疎通のためのベースとなる動作ではあるが、さらに目や口、顔の表情、体の動き等を総動員しなければならぬ、ということでした。講師は聴覚障害者の方が良いそうで、実際に聴覚障害者と対話するために、口の形で理解させる口話、筆話、指文字、触手話等のスキルも覚え、これ等を臨機応変に駆使することが必要だそうです。

手話は大変奥の深いものであり、今後神奈川会として希望者を一堂に会して行い得るものなのか否かを慎重に検討したいと思っています。

(新島 健)

京葉会

■第22回虹の下水道館見学と有明水再生センター・ガイドツアー

(4月12日 参加者34名)

都会に住む私たちは「生活と環境を守る水再生・下水道施設」が「どこにあるのか」「どのようなになっているか」知る人は少ない。そこで今回、社会科見学を実施した。東京都有明にあるUFO型の建物、虹の下水道館を見学。アテンダントから、下水道のしくみと役割など詳細な説明を受け、その中で気になったことは、「家庭で油を下水に流すと大きなオイルボールになって下水管が詰まってしまふ。川や海に繋がっている」、そこで「牛乳パックなどにキッチンペーパーや新聞紙などを詰



虹の下水道館にて

めて、そこに油を流し込み、テープで蓋をして燃えるゴミとして出す」油の捨て方が重要。下水道管、マンホールの内側をのぞいたりして、下水道に携わっている人達の思いや工夫に気づくことができた。その後、シネマで「もしも下水道管がなかったらどうなるのか」を観た。雨水を速やかに排除し浸水から街を守る。家庭や工場からの汚水を処理して快適な生活環境を確保してくれる素晴らしいものです。次に、有明水再生センターのガイドツアーでは、沈砂池、第一・第二沈殿池、微生物の入った反応槽、今までの下水処理では取り除きにくい窒素やリンを高度

処理で除去し、きれいな水によみがえらせる水処理を実際に見学した。水をきれいにして自然に還す大切さを学んだ。昼食懇談会は、展望レストラン「つきじ魚惣」の和定食をいただき、窓からの景色、東京タワーにスカイツリー、そして、これからどうなるのか豊洲市場、東京オリンピックバスケットボール会場予定地を見ながら、なごやかに懇談した。

（菅沼隆夫）

■佐倉城址公園と武家屋敷巡り
（5月30日 参加者30名）

晴天で季節はずれの暑さとなったこの日、千葉県第一の城下町佐倉市の歴史ウォークを行いました。

JR佐倉駅に集合し、いよいよタイムトリップのスタートです。最初の見学は最後の佐倉藩主の邸宅「旧堀田邸」です。傾斜地を利用して建てられた広大な屋敷でほぼ完全に保存されています。幕末の動乱をよそにひっそりとした趣のあるたたずまいです。

その後、老舗蕎麦屋でおいしい昼食をいただき日本遺産となった城下町を歩き武家屋敷に到着。女性ボランティアの楽しい解説を聞きながら



「川瀬屋」の店頭にて

晴天で季節はずれの暑さとなったこの日、千葉県第一の城下町佐倉市の歴史ウォークを行いました。

JR佐倉駅に集合し、いよいよタイムトリップのスタートです。最初の見学は最後の佐倉藩主の邸宅「旧堀田邸」です。傾斜地を利用して建てられた広大な屋敷でほぼ完全に保存されています。幕末の動乱をよそにひっそりとした趣のあるたたずまいです。

その後、老舗蕎麦屋でおいしい昼食をいただき日本遺産となった城下町を歩き武家屋敷に到着。女性ボランティアの楽しい解説を聞きながら

れません。京成佐倉駅までバス移動し、駅前の居酒屋でノドを潤し一日を無事終えました。

懇親会ではイベント初参加者からも内容に満足できたとの声が聞かれ、幹事一同大いにホッとしました次第です。

（長嶋良一）

埼玉会

■第30回イベント
「JAXA筑波宇宙センター見学」
（3月17日 参加者32名）

天候にも恵まれ、大宮を貸切りバスで10時に出発。11時過ぎに現地に到着。各自バス内で昼食を済ませロケット広場・スペースドーム等を散策。1時半よりツアーを開始。まず、乗ってきたバスで宇宙飛行士の基礎訓練や健康管理を行う施設へ。今回は、人数が多いため2班に分かれて見学を開始。

初期から最新のロケットの模型や写真、実際に飛行士が食した宇宙食などを見て回る。歴代の宇宙飛行士の写真が掲げられた室ではガラス窓越しに飛行士がG（重力）を体験した器具や、宇宙空間と同様な仕様の

長期滞在型の生活・執務の居住スペースを見る。

この施設の入口に宇宙服が展示されています。この服は、ヘルメットから足元の靴まで1体10億円で、4層の構造になっており、重量は120kgとのこと。因みに、外気とは遮断され密閉性が高いため、体温が上がらぬ様冷水を循環させて一定の温度に保っている。この服を見て意外に思ったのは、外気に触れる部分はメタル様のもので覆われているものと思っていたのが、一見綿のシャツの様だったので、驚きました。次に、バスで向かったのは宇宙ステーションと直接交信しているセンターです。ここは、中に入る時にカメラや携帯電話は持ち込み禁止で、入口の籠に預ける程、チェックが厳しかった。ガラス窓越しに広いセンターを見ることが出来、6〜7人の担当者が仕事をしていました。ここでは、24時間3交代で常駐し、宇宙飛行士が休養している間も宇宙ステーション内部のカメラで監視しているとのこと。

我々の見学も10分位で、退場となりました。バスでスタート地点に戻



JAXA筑波宇宙センターにて

り、展示館「スペースドーム」を見学。「歴代のロケットの模型」「きく」「だいち」「I-E-5エンジン」等の実物大の物が展示されていた。中でも、日本の実験棟「きぼう」や物資を運ぶ「こうのとりのり」には、よくこんな大きな物をこの上空へ打ち上げたものだと感心しました。

滞在時間は約4時間程でしたが、日本の宇宙科学の力量に感嘆いたしました。

ました。

(菊池正美)

西東京会

■日本退職者協会のゴルフコンペ

優勝者 米山修氏の弁

(3月24日 参加者18名)

ハンディのおかげで優勝しました！ ありがとうございます。

4年ぶりに日退協のゴルフに参加させていただきました。

当日は今までの寒さも和らぎゴルフ日和でありました。

前半のハーフは調子が上がらず、8打、7打が多くなり同伴の方にはご迷惑をおかけしてしまいました。しかし、そのおかげで高いハンディ25・2をいただき図らずも優勝できました。同伴いただいた飯島様、足立様ありがとうございます。

さて、今回の参加者の皆様のお元気に感嘆いたしました。最近は多くのゴルフ場が乗用カートでのプレーになりますが、狭山GCでは皆様闊歩されておられました。参加者の半数の方が75歳以上というまさに退職者協会にふさわしく、元気に退職後を楽しんでおられる情景でした。



狭山GCにて

特に最高齢の横堀様がベスグロの91で回られました。ゴルフを本当に楽しんでおられるお話しをお聞きし、小生(67歳)もぜひ80歳を超えても元気にゴルフをしてまいろうと決意した次第です。

私事ですが現在、東京家庭裁判所の家事調停委員の仕事をしております。

調停の多くは離婚調停ではありませんが、最近では遺産分割の紛争もかなり多くなっています。

子供たちが遺産を巡り紛争になるのは残念なことです。

そこで日本退職者協会が作成した『私の大切な覚書き』を利用して、

資産を確定させ親の思いを明確にしておくことが本当に重要と感じております。

(米山 修)

■第30回イベント「神田川沿い観桜会」

(4月4日 参加者19名)

お花見の日程選定は毎回悩みの種で、今年も開花宣言が早かった割に、その後の天候が不順で満開は大分遅れました。西東京会の観桜会は4月4日に設定しましたが、余りにも早い開花宣言に見頃が過ぎてしまうのではと幹事は頭を痛めました。が天気も良く寒くもなく、八分咲きの丁度よい観桜会になりました。午後1時京王井の頭線の高井戸駅に集合。高井戸駅前から神田川桜並木へ浜田山へ西永福へ明大前と住宅街を流れ



神田川沿い観桜会にて

る神田川沿い約5キロをお花見散歩しました。神田川は三鷹市の井の頭恩賜公園内の「井の頭池」が源流で、杉並区、中野区、新宿区、豊島区、文京区、千代田区、台東区を横断し両国橋で「隅田川」に合流する全長24・6キロの一級河川。一級河川とは思えない、穏やかな川に思えますが、コンクリートに固められその壁の高さは5〜6メートルもあり、豪雨ともなれば水位が上がれば被害が出ることもあるようです。

今は整備され水面もきれいで、桜・山茶花などの花々や、白鷺、鯉、鴨等々自然がいっぱいで「東京にもまだまだこんな自然があるのだな」と痛く感激しました。また隅田川と合流するまでに140の大小の橋が架かり夫々名前がついているようで驚きです。歩き始めてから一時間位のところに、杉並区立塚山公園があり塚山遺跡（縄文時代の竪穴住居群跡）が復元されている。総面積2万8700平方メートルの広大な自然公園で休憩しました。今回の観桜会コースは途中にお店が全くないので、ちよつとした地元のおやつを用意しました。好評でし

た。神田川沿いのお花見が終了し、明大前駅までの道のりは結構距離があり疲れましたが、有志での懇親会では思いがけずカラオケもあり、疲れを吹き飛ばした観桜会でした。

(遠間ひで子)

■第31回イベント「神代植物公園のバラ見学と深大寺への参拝」

(5月23日 参加者18名)

初夏の快晴が続く当日、「都立神代植物公園のバラ見学」と同公園に隣接する「深大寺への参拝」を目的として開催されました。当公園は調布市に位置し武蔵野の面影が残る広大な公園にはバラ園をはじめ、つつ



神代植物公園にて

じ園、ウメ園、ハギ園など植物の種類ごとに30種類のブロックに分かれており、また熱帯植物も鑑賞できる大温室も設けられており四季を通じて近県等からの来園者も多く関東でも有数の植物公園として知られています。

当日はJR三鷹駅に集合して路線バスで公園に向かいましたが、特に当日は年間を通じて最も人気も高く来園者も多い「春のバラフェスタ期間」の最中でもあり、既にバラ園は来園者で満杯(?)でした。バラ園では内外の約四百品種、五千株を超える色とりどりのバラが咲き誇りご案内の通りさすがに圧巻でした。

バラ園見学後は、この公園に隣接する「深大寺」を参拝しました。この深大寺はバラ園と隣接していることもあり、特に今年の三月にはこのお寺の「深大寺銅造釈迦如来像」が国宝に指定されたことにより、参拝者が急増しているとのことでした。

参拝終了後は近くのそば処「深大寺多聞」で改めて有志による反省会と懇親会を行い、特に「そば焼酎」を頂きながら楽しい一日でした。

(福島龍郎)

三百回を数える「二木会」

広島支部（二木会世話人） 平石純一

二木会は、会員が一堂に集まって月に一度開催される情報交換の場であり、会員相互の親睦を深める機会でもあります。今年、支部設立二十五周年を迎え、二木会開催も三百回を数えます。

二木会のメインは、会員または外部講師によるショートスピーチです。最近のショートスピーチで特筆すべきことは、本部湯藤理事長より『日退協の発展』と題し、ユーモアを交え『きたざわサロン』などの活動を具体的にお話しいたこと、また、日退協広島支部を立ち上げた梶田顧問より、『支部創設時の話』として当支部の生い立ちを語られたことです。

日退協の支部は平成四年に設立されたのは広島のみで、他の都市の関係者から支部立ち上げの照会や見学に來られたが設置にまで至らなかったことや、広島支部立ち上げの経緯からも、個人会員主体になっていることを聞き、初めて知った会員もおられ貴重な経験で

した。

さらに、印象に残った話の一つは、介護支援専門員が語る介護のお話でした。もつと先のことだと思っていたが、『自分の

老後をだれに託するのか』を厳しく問われているものでした。ショートスピーチがもとになって、新たに『なば愛好会』も発足しました。

二木会は、新入会員紹介、会員の誕生月スピーチ、事業・同好会報告と盛り沢山の内容です。スピーチの時間超過はベルで知らせる制度が定着しており、三分で話が終わらない時は、『チリン！ チリン！』と鳴って、笑いのうちに話は終わります。

世話人の悩みは、二木会への参加者が減少傾向にあることです。月初めに二カ月前の会場予約をします。最近では、会場の競争率が高くなり、

開催予定の第二木曜日が確保できないことが多く悩みは深刻です。いろいろ検討しましたが、新入会員の増強を図ることが、二木会の出席率アップをはかる一番の近道のようなので、ショートスピーチの講師探しに苦労しますが、会員の皆様に二木会に行つてよかつた心から思っていただけのように、これからも努力したいと思っています。



二木会 ショートスピーチ 風景

公益社団法人 日本産業退職者協会 役員名簿 (50音順)

(平成29年7月20日現在)

監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	専務理事	専務理事	副会長	副会長	役員			
横堀尚昭	江口俊治	満田将太郎	福島龍夫	橋本隆修	西村征次	長澤征次	遠間ひでこ	吉川敏孝	伊藤春江	石井雅彦	山田康彦	牧田康彦	藤崎大四郎	嶋山忠昭	佐久間征二	倉片厚子	大里璋子	井上国春	糸数富美江	細江諷夫	高島進一	安藤隆夫	湯藤隆哲	田根貞樹	関根貞夫	前田晃伸

参 与 顧 問

渡部俊一	鷺山俊一	三砂善之介	日高誠光	西納政光	富川正夫	店網俊夫	鈴木裕史	鈴木俊二	芝山茂子	加藤孝夫	岩淵芳夫	市川千尋	山本恵朗	山鹿素雄	松多昭三	久野木行美	梶田省三	榎本郁夫	上神圭二
------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------

編集後記

社会貢献活動として活動している「きたざわサロン」が8年目に入りました。発足当初から7年間無欠席の皆勤賞者が12名もいらして6月のサロンで表彰状を贈呈しました。

ゲストの皆様のお言葉を聞いていると、とても楽しいサロンなので最優先して出席しているとかが、おやつが楽しみとか……、物つくりも得手不得手がありますが皆さん楽しく遊んで次回を約して帰ります。スタッフの準備等が大変なことも理解してくださっていて、こちらからの本音のお願いにもすぐサポートしてくださり、今とても良い関係が続いています。どうしてこんなに絆が深まったのか考えてみました。スタッフのボランティア精神に尽きます。長い会社生活を終えて、さて何か役に立つことをしようかと思ったとき、日退協があったのです。そういう方の集まりなので、皆さん骨身を惜しまない、誠心誠意物事に当る、

阿吽の呼吸で持ち分も決まりスムーズにサロンの一日が始まり終るので。終了後は来月の準備・確認を、ご苦労さん会をして解散となります。心地よい疲れは来月の力になります。日退協の会員でイベントに一度も参加されていない会員が42%もいらっしやるとのデータ掲載がありました。日退協は会員自身が楽しむ場でもあります。まず興味のあるイベントに参加して活動を広げて下さることを願っています。(遠間ひで子)

《お詫びと訂正》
マチュリティ104号(2017年1月)の「訃報」に、以下の誤りがございました。
28ページ上段3行目
(誤) (享年八十三歳)
(正) (享年八十二歳)
謹んでお詫び申し上げます、ここに訂正いたします。

MATURITY・第一〇五号

二〇一七年七月二〇日発行

湯藤 哲 発行人

館野 操 編集人

公益社団法人 日本産業退職者協会

〒101-0026 東京都千代田区神田佐久間河岸51

第一スレートビル7階

電話 〇三(六二四〇)九三八一

ファックス 〇三(六二四〇)九三八二

ホームページ <http://jarp.or.jp/>

法人・団体 会員名簿

(平成 29 年 7 月 20 日現在)

株式会社イトーヨーカ堂	東京建物株式会社	丸大食品株式会社
片倉工業株式会社	株式会社千代田セレモニー	丸紅株式会社
共栄火災海上保険株式会社	トリア再保険株式会社	みずほ信託銀行株式会社
株式会社グリーンホスピタリティーマネジメント	西松建設株式会社	株式会社みずほフィナンシャルグループ
五洋建設株式会社	日本カーボン株式会社	株式会社ミツウロコグループホールディングス
JFEスチール株式会社	一般社団法人日本損害保険協会	安田不動産株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	ヒューリック株式会社	ユニバース開発株式会社
株式会社第一興商	富士火災海上保険株式会社	株式会社リサ・パートナーズ
大和証券株式会社	芙蓉総合リース株式会社	(五〇音順)
宝酒造株式会社	株式会社ベネフィット・ワン	
東京海上日動火災保険株式会社	文唱堂印刷株式会社	



▲神の子

佐々木 悦夫（広島支部）

世界遺産宮島厳島神社夏の祭、管絃祭の御座船を曳航する。呉市阿賀の船に、選ばれし、神の子は、誇らしげに、肩車され、船まで運ばれるのである。



▲サンフラワー

菅 克之

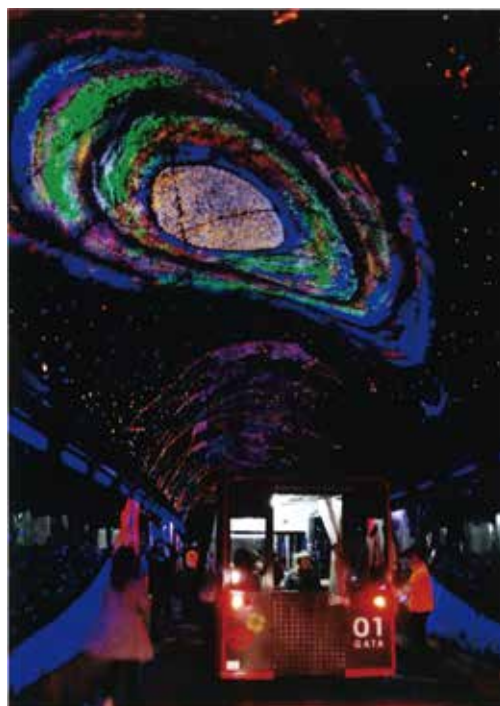
夏の日差しを受けて花びらが燃え上るように見えました。



▲住吉神社祭礼

細田 將孜

月島『もんじゃ通り巡行』初夏の祭礼ですのであちらこちらから水を掛け景気をつけています。



▲トンネル内の小宇宙

藤崎 章（広島支部）

宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」のように、暗い闇の中へ入り、トンネル内の側壁に映し出された幻想的なイルミネーションの中をゆっくり走行します。

※山口県岩国市「とことこトレイン」の「瀬トンネル」。俗称「キララ夢トンネル」。